

「学生便覧別冊」

昭和60年度開講科目



お茶の水女子大学



昭和60年度 行事予定表

月	日	(曜)	事	項
4月9日	(火)		入学式	
4月13日	(土)		前学期授業開始	
6月5日	(水)	～7日(金)	定期健康診断	
7月11日	(木)	～13日(土)	新入生セミナー	
7月11日	(木)	～17日(水)	補講日	
7月18日	(木)	～9月8日(日)	夏期休業	
9月24日	(火)	～30日(月)	前学期末試験	
10月1日	(火)	～7日(月)	秋期休業	
10月8日	(火)		後学期授業開始	
10月30日	(水)		体育祭	
11月9日	(土)	・10日(日)	文化祭	
11月29日	(金)		創立記念日	
12月25日	(水)	～1月9日(木)	冬期休業	
1月24日	(土)	・25日(日)	共通第1次学力試験	
			のため臨時休業	
2月15日	(土)	～21日(金)	後学期末試験	
3月23日	(日)		卒業・修了式	

	目次	頁
一般教育科目	1	1
外國語科目	9	9
保健體育科目	21	21
留學生特別科目	22	22
文教育学部(人文科学研究科)	23	23
理 学 部(理学研究科)	77	77
家 政 学 部(家政学研究科)	105	105
教職専門科目	137	137
専任教官名簿	143	143

## 附表

## 補導委員・学科主任一覽

### 行事予定表



昭和60年度 学科主任・補導委員一覧

学 科	補 導 委 員				学科主任
	1 年	2 年	3 年	4 年	
哲 学	坂 本 羽 入	高 島 江 原	尾 田	土 屋	宮 島
史 学	山 本	小 風	佐 伯	岸 本	大 口
地 理	内 藤	栗 原	三 上	式 井 内	浅 海
国 文	浅 井	平 野	白 藤	犬 養	三 木
中 文	佐 藤	中 山	中 山	佐 藤	近 藤
英 文	今 西	富 山	宮 川	海老根	宮 川
仏 文	石 川	石 川	中 村	中 川	中 川
教 育	小 川	上 野	河 野	鷹 野	小 川
心 理	春 日	内 藤	須 賀		春 日
舞 踊	加 賀	石 黒	片 岡	興 水	森 下
音 楽	徳 丸	遠 藤	大 宮	林	大 宮
数 学	松 田	小 山	伊 関	林 田	林 田
物 理	池 田	亀 井	福 田	伊藤(厚)	橋 爪
化 学	細 矢	塩 田	曾 根	瀬 野	瀬 野
生 物	芦 原	馬 場	渡 辺	山 下	遠 山
児 童	飯 長	黒 田	本 田	水 野	本 田
食 物	久保田	畑 江	相 田	本 間	小 林
被 服	小 川	板 倉	小 池	駒 城	石 川
家 経	犬 塚	湯 沢	袖 井	小 倉	小 倉

一般教育科目  
外国語科目  
保健体育科目  
留学生特別科目



(一般教育科目) 人 文

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容 特 徴
哲 学 (中・外古)	羽 入	I・II	現代社会における人間の在り方に関して哲学的に問い、その解答の手がかりを先哲の思想の中に求める。今年度はとくに生と死をめぐる問題について考えてみたい。
倫 理 学	尾 田	I・II 前	現代生活における倫理の問題を、科学、経済、政治、芸術、教育、宗教の側面からとりあげる。教科書「倫理学」(学陽書房)
論 理 学	羽 入	I・II 後	論理学の歴史的展開を概観し、さらに、現代論理学とその応用について概説する。
心 理 学	石 井	I・II	人間を科学的に理解することを試みる学問としての心理学について、その歴史的経緯と現在の心理学諸分野を広くとりあげるとともに、人間固有の高次精神機能である認知の心理学に重点をおく。
宗 教 学	後 藤	I・II	ヨーロッパの根源といわれる北欧の文化、伝承にひそむ憂愁を考える。
文 学 I	浅 井 堤	I	「文学とは何か」ということを、国文学の立場から考える。前期に近代文学を後期に古典文学を対象として扱う。
文 学 II	杉 本 石 丸	I・II	前期は杉本が主として19世紀中葉以降世紀末までの、後期は石丸が世紀転換期から20世紀にかけてのドイツ文学の諸問題をさぐる。
国 語	白 藤	I・II	日本語の特色を、音韻・文学・語彙・文法などについて考える。
芸 術 学			未定



文 人 (目録頁参照)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
音 楽	大 宮	I・II 前	西洋音楽史連続講義(1) 古代・中世・ルネッサンス。音楽史の背景、演奏形態、楽器等を、スライドによる音楽図像学の観点より講述。レポート提出。参考文献：ヒューズ「ヨーロッパ音楽の歴史」朝日出版社(改訂版)；柴田南雄「西洋音楽の歴史(上)」音楽之友社。
音 楽	徳 丸	I 後	日本音楽の概論。音と映像のほか、楽譜の資料も使う。
		II・I	人 権 学 概 論
		II・I	共 同 学 概 論
		II・I	道 徳 学 概 論
		I	共 同 学 概 論
		II・I	本 国 史 概 論
		II・I	道 徳 学 概 論

社 会

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
法 学	中 西	I・II 文教育・理	一般教育として、法学の基礎的理論及び日本国憲法を概説する。重点は後者におく。教科書：佐藤 功著「日本国憲法概説」全訂二版(学陽書房)
法 学	I 森 田	I・II 家 政	〔日本国憲法〕憲法判例を素材として日本国憲法の概観を行い、あわせて民刑事法の運用及び比較憲法史への言及を行う。教材、奥平康弘『憲法』、野中俊彦ほか『憲法判例集』原則として4単位取得すること(受講者は掲示に注意すること)。
法 学	II 湯 沢	I・II 前	家族を律する民法第4・5編の成立、親族・婚姻・離婚・親子・扶養に関する法的構成と裁判例の具体的説明。(小型)六法全書が必要。
法 学	II 堀 内	I・II 後	刑法について講義する。我々の日常生活と刑法がどのように関わり合っているかを具体的事例を中心に述べてみたい。小六法を持参のこと。講義に必要な資料はその都度配布する。
政 治 学			本年度開講せず
経 済 学	柴 垣	I・II	資本主義経済の成立、発展、爛熟過程を歴史的理論的に考察し、近代社会を認識する座標軸を明らかにするとともに、日本経済の諸問題を検討する。教科書：日高 普「経済学」(岩波全書)
社 会 学	宮 島	I・II	現代日本の社会意識について考察をくわえる。今日の社会状況の下で人びとの生活意識、労働の意識、政治意識などがどのような特徴と相互連関の下にあるのかを考えていきたい。授業の後半で宮島『現代社会意識論』(日本評論社)をテキストにする予定。



会 社

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
歴 史 学	青 木 前	I・II	日本古代における「個性」の自覚。即ち日本人は何時頃から周囲の集団とは異なる自己自身を自覚するようになったか。
歴 史 学	山 本 後	I・II	近代ヨーロッパがはらむ問題性とは何かを、多角的に追求する。
文 化 人 類 学	田 中 前	I・II	日本的な人間関係のあり方や価値観を客観的に見直すことを中心的課題としながら、多様な「社会」や「文化」の幾つかを通文化的に検討する入門コース
地 理 学	斎 藤 前	I・II	地理学は、現在著しい変革期にある。ここでは「人間主義的地理学」と呼ばれる新しい地理学の立場からその基本的な考え方をやさしく講述する。教科書は使用しない。参考文献はその都度示す。
地 理 学	栗 原 後	I・II	I. 近代地理学の成立, II. 近年の地理学研究の動向, III. 空間的不平等(様々な空間スケールにおける不平等について考察, 低開発世界の事例を多くとり入れる)
家 政 学	袖井他 後	I・II	家政学の現状と課題について、家政学の各分野から考察し、現代における家庭生活の諸側面を考える。
国 際 関 係 論	山 本 後	I・II	
婦 人 問 題	原 前	I・II	(諸社会における女性)地球上の諸社会における女性の位置づけを比較考察する。
生 活 文 化 論	原 他 後	I・II	生活文化に根ざした諸問題を、いろいろな角度からとりあげ、複数教官による講義、討論を行う。本年度のテーマは「混ざる」。

自 然 (文): 文科系学生対象  
(理): 理科系学生対象

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
数 学 (文) I	伊 関 前	I・II	ゲーム理論入門。簡単な長方ゲームを実際に解くことを目標とする。予備知識としては、高校の数学I, 代数・幾何, 基礎解析の程度で十分である。
数 学 (文) II	本 田 後	I・II	思想史的な数学史。ユークリッド, デカルト, ガロア, ヒルベルトなど何人かの代表的数学者の数学思想の中に、数学とは何かということ及び人間の文化史全体の巨視的な流れを明らかにして行く。
物 理 学 (文)	福 田 (博)	I・II	力学及び電磁気学の概説 科学の発展のきっかけや原子物理の入口をふれる。
化 学 (文) I	前 田 前	I・II	一般教養としての化学の基礎及びその発展の歴史, 化学と生活のかゝりあいなど。教科書: 林太郎著「創造の化学」(裳華房)。
化 学 (文) II	中 西 後	I・II	化学の立場から見た物質界の諸側面
生 物 学 (文) I	塚 本 I 前	I 前	エネルギー代謝について
生 物 学 (文) II	太 田 I 後	I 後	人間を中心にして、生物学の見方や考え方を伝える
数 学 (理) I	関 本 I 前	I 前	一変数の微分と積分 教科書: 岩堀長慶編「微分積分学」(裳華房)
数 学 (理) I	西 沢 I 前 家 政	I 前	一変数の微積分の基本事項を数値的にとらえることを目的として、本書中にあるプログラムにより、関数の近似, 定積分の近似計算, 曲線, グラフなどを描いてみる。 教科書: 寺田文行著「微分・積分」 New LIBRARY OF Mathematics-2 (サイエンス社)



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
数 学 (理) II	小 山	I 前	線形代数のうち、行列、行列式、連立一次方程式の解法など。後期の初等線型代数 (理、共通) につづく。 教科書：村上正康他著「教養の線形代数」培風館
数 学 (理) II	立 花	I 前 家 政	行列、連立一次方程式の解法、行列式など。 教科書：村上、佐藤、野沢「教養の線形代数」培風館
物 理 学 (理) I	福 田 (博)	I・II 前	力学を中心として、物理学の考え方と、自然法則の基本的諸法則を解明する。 参考書：原島鮮 物理学上巻 学術図書
物 理 学 (理) II	藤 田	I・II 後	相対性理論、前期量子論、および量子力学の初等的解説。
化 学 (理) I	曾 根	I 前	化学のもっとも基礎的な部分をなす気体・液体・固体・溶液の諸法則を、高校で化学を選択しなかった学生にもわかるよう、入門的に解説 教科書：吉岡甲子郎「物理化学大要」(養賢堂)
化 学 (理) II	塩 田	I 後	有機化学の基礎。 教科書：塩田三千夫著「官能基の化学」(改訂版) (装華房)
生 物 学 (理) I	石 和	I 前	遺伝学とその周辺。 教科書：クロー遺伝学概説 (培風館)
生 物 学 (理) II	新 関	I 後	遺伝学入門。基礎的な知識と新しい発展について述べる。
地 学 (天文気象)	小 林	I 前	天文学と気象学が対象とする現象と社会・経済諸活動に及ぼす影響について、基礎事項に力点を置いて概説する。参考書：関岡「気象学」、大沢「天文学」(東京教学社)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
地 学 (地質・鉱物)	川 崎	I 前	われらが大地をつくるもの、石と水と泥と、その組合せである大地の形について生成から今日までの道すじを、穏れたエピソードを加えつゝ話を進める。
統 計 学 I	鍋 谷	I 前	データの記述、確率、分布、推定、検定などについて、統計学の基礎になっている考え方を中心に講義する。 教科書：ホーエル著、浅井・村上共訳「初等統計学」(培風館)
環 境 科 学			未定
電子計算機講義・実習	並 木 石 黒 橋 爪 佐 藤	全学部 前	FORTRAN 77による電子計算機プログラム作成の講義と実習。数学科、物理学科の学生は受講できない。(30名まで) 参考書：浦昭二編「FORTRAN 77入門」(培風館)
一般物理学実験	富 永 大 島	II 前	基礎的な物理実験。「物理学(理)I」, 「物理学(理)II」, 「初等波動・熱学」, 「初等電磁気学」のうちいずれか1科目の単位を取得していなければ履修できないので注意のこと。(25名まで)
一般化学実験	前 田	II 後	化学の基礎となる実験。「化学(理)I」, 「化学(理)II」のうちいずれか1科目の単位を取得していなければ履修できないので注意のこと。(30名まで)
一般化学実験	倉 田 本 間 久保田	II 後	化学の基礎となる実験。「化学(理)I」, 「化学(理)II」のうちいずれか1科目の単位を取得していなければ履修できないので注意のこと。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
総合コース			
「子供と大人」	平野・三木・堤・石丸・内藤 (人文分野) 水野・宮原・飯長・黒田・森田 (社会分野) 平山・亀井・鈴木・太田 (自然分野)		
<p>一般教育科目の各分野にわたる共通な一つの主題について、総合的に学ぶものである。講義の内容については、別刷パンフレットを配付する。</p> <p>主として二年生対象</p> <p>履修単位数：4単位、ただし二年度以上履修した場合、計8単位までが一般教育科目の単位として数えられる。</p> <p>ただし、各分野で最低8単位修得すべき単位には含まれない。</p> <p>セミナー：総合コースの成果をあげるため、前・後期各1回セミナーを行う。</p> <p>試験方法等：詳細については、別刷パンフレットを参照のこと。</p>			

(外国語科目)		英 語	
科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初級	海老根	文 I A	Lewis Carroll : <u>Alice's Adventures in Wonderland</u> (北星堂)
	今井	文 I A	A. Sillitoe 他 : <u>Contemporary British Masterpieces</u> (金星堂)
	三谷	文 I B	<u>Modern British &amp; American Writers</u> (南雲堂)
	吉岡	文 I B	Milne 他 : <u>Modern Lighter Essays (I)</u> (金星堂)
	山口	文 I C	下記の2冊を使用。 1. <u>Male/Female Language</u> by Mary Ritchie Key (竹村出版) 1. <u>The Feminine Mystique</u> by Betty Friedan (朝日出版)
	今井	文 I C	S. Harris : <u>Of the Social Animal</u> (南雲堂)
上級	篠塚	文 II A	Eve Garnett : <u>The Family from One End Street</u> (Penguin Books)
	井上	文 II A	<u>Penguin Book of English Short Stories</u> (英潮社)を読む。
	外山	文 II B	Joan Mc Connell : <u>Language, A Mirror of Our World</u> (成美堂)
	山口	文 II B	下記の2冊を使用。 1. <u>Male/Female Language</u> by Mary Ritchie Key (竹村出版) 1. <u>The Feminine Mystique</u> by Betty Friedan (朝日出版)



英 (日本語教科書)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
上級	野 島	文II C	V. Nabokov : Nabokov's Best Short Stories (南雲堂, 960)
初級	海老根	文II C	Endymion Wilkinson : Misunderstanding (Penguin Books)
初級	西 尾	理I A	前半はヒアリング。後半は講読。 American Patterns (Addison Wesley)
初級	吉 岡	理I A	Milne他 : Modern Lighter Essays (I) (金星堂)
初級	富 山	理I B	テキストは最初の授業で配布する。
初級	井 上	理I B	L. King : A Corner in a Foreign Field をプリントで読む。
上級	今 西	理II A	J. Holt (1969) How Children Fail を読む。ヒアリング教材に関しては、各時間ごとに各種のものを使用する。
上級	田 中	理II A	英国の知識階級の青春を探る。 テキスト Evelyn Waugh : Brideshead Revisited (Penguin)
上級	篠 塚	理II B	A. A. Milne : Once on a Time (研究社)
上級	俵 田	理II B	長谷川・Wright : This is America (成美堂 91100) を使って聴き取りや作文の練習をする。又、テキストの内容に関連した新聞記事なども読む。

ドイツ語

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初級	西 尾	家I A	前半はヒアリング。後半は講読。 The Language of Clothes Vol. II (英宝社)
初級	鈴 木	家I A	一般教養課程における英語の運用能力を身につけさせる事を目的にして、読み、書き、話し、聴く、という面での訓練をする。教科書は最初の時間に決める。
初級	田 中	家I B	日英比較文化のエッセイを読む。 テキスト Sir Hugh Cortazzi : Thoughts from a Sussex Gardens (英潮社新社) John Newman : Talking from England (英潮社新社)
初級	小田川	家I B	K. Vonnegut他 : American Short Stories of Today (成美堂 980)
上級	富 山	家II A	Alison Lurie, The Language of Clothes (英宝社) を読む。
上級	園城寺	家II A	P. Gilbert, D. Morris などの著作を通して、文学と社会、人間とその心理動向等について学ぶ。
上級	野 島	家II B	R. Brautigan, Selected Stories (南雲堂, 980)
上級	三 谷	家II B	Modern British & American Short Stories (成美堂)
英会話演習全I a	ルイス	I	Jack C. Richards & David Bycina : Person to Person Book I (Oxford University Press)
英会話演習全I b	ルイス	I	Jack C. Richards & David Bycina : Person to Person Book I (Oxford University Press)



科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
英会話演習全 II	クレイ ン	II	This is a class for low-to-high intermediate levels in English. The class will use a textbook and video tape to practice listening and speaking skills. The course grade will be decided by attendance and examinations (listening, speaking). TEXTBOOK: FOLLOW ME TO SAN FRANCISCO New York: Longman/BBCI
英会話演習全 I	クレイ ン	I	This is a class for low-to-high intermediate levels in English. The class will use a textbook and video tape to practice listening and speaking skills. The course grade will be decided by attendance and examinations (listening, speaking). TEXTBOOK: FOLLOW ME TO SAN FRANCISCO New York: Longman/BBCI

# ドイツ語

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
初級		I	文法と演習は毎週それぞれ2時間ずつ通年合計2単位。読本は毎週2時間ずつ通年2単位。各級とも文法・演習・読本合計6時間4単位履修。
文 I A (文法)	杉 本	文 I A (文法)	志田・杉本「ドイツ語の文法 (改訂版)」 (第三書房)
文 I A (演習)	杉 本	文 I A (演習)	同上
文 I A (読本)	松 尾	文 I A (読本)	シャイフェレ・内藤「ドイツ語の広場」 (同学社)
文 I B (文法)	石 丸	文 I B (文法)	志田・杉本「ドイツ語の文法 (改訂版)」 (第三書房)
文 I B (演習)	石 丸	文 I B (演習)	同上
文 I B (読本)	中 村	文 I B (読本)	シュルツ・グリースバハ・猿田「外国人の為のドイツ語」 (郁文堂)
理 I A (文法)	菅 野	理 I A (文法)	志田・杉本「ドイツ語の文法 (改訂版)」 (第三書房)
理 I A (演習)	渡 辺	理 I A (演習)	棚瀬・恒吉・Oka「ドイツへのパスポート」 (同学社)
理 I A (読本)	千 艘	理 I A (読本)	根本「あたらしいドイツ語の読本」 (東洋出版)
理 I B (文法)	杉 本	理 I B (文法)	志田・杉本「ドイツ語の文法 (改訂版)」 (第三書房)
理 I B (演習)	杉 本	理 I B (演習)	同上
理 I B (読本)	中 村	理 I B (読本)	西尾「新訂西尾標準ドイツ語読本」 (同学社)



部 門

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初級	宮 原	家 I A (文法)	信岡「ドイツのことば (文法篇)」(郁文堂)
〃	平 野	家 I A (演習)	ビクセル・野田「何も知りたくない男」 (郁文堂)
〃	渡 辺	家 I A (読本)	シャイフェレ・内藤「ドイツ語の広場」 (同学社)
〃	石 丸	家 I B (文法)	志田・杉本「ドイツ語の文法 (改訂版)」 (第三書房)
〃	石 丸	家 I B (演習)	同上
〃	川 口	家 I B (読本)	平尾・シュタインバッハ「文法読本—— ウィーンの学生生活から」
上 級	宮 原	文 II A	O. Flake「琥珀の島」(郁文堂)
〃	石 丸	文 II A	D. Sternberger「ユーゲントシュティール」 (白水社)
〃	上 野	文 II B	C. G. Jung「人間のタイプ」(同学社)
〃	千 艘	文 II B	E. Mörike「若き日のノルテン」(郁文堂)
〃	喜多尾	理 II A	P. Rosei「途上」(第三書房)
〃	長谷川	理 II A	P. Kapitza「西洋の日本, 東洋のドイツ」 (白水社)
〃	上 野	理 II B	H. Glaser「神経症と現代」(南江堂)
〃	長谷川	理 II B	M. L. Kaschnitz「天使」(三修社)
〃	菅 野	家 II A	H. Hofe「ドイツ・ことばと文化——やさしく読めるドイツ文化史——」(朝日出版)

部 門

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
上級	松 尾	家 II A	J. Roth「ラデツキー行進曲」(郁文堂)
〃	喜多尾	家 II B	E. Staiger「一枚の絵の前で」(白水社)
〃	川 口	家 II B	W. Bergengruen「スペインのバラ」 (郁文堂)
高 級	石 丸	文教育 III・IV	初回に配布する。
高 級	杉 本	上 野	理・家 III・IV
独 会 話 (初 級)	ジークリ ト・酒井		初回に決める
独 会 話 (上 級)	ジークリ ト・酒井		初回に決める



フランス語

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
初 級		I	文法と演習は毎週それぞれ2時間ずつ通年合計2単位。読本は毎週2時間ずつ通年2単位。各級とも文法・演習・読本合計6時間4単位履修。
"	中 村	文 I A (文法)	京都大学編『新初等フランス語教本—文法編—』(三訂版)(白水社)
"	"	文 I A (演習)	〔なお、文法、演習の両クラスで同じテキストを用いるから、かならず両クラスに出ること〕
"	中 条	文 I A (読本)	京大フランス語教室著「新初等フランス語教本」(白水社) 83年版
"	中 川	文 I B (文法)	島岡著「新フランス小文法」(白水社) 1200
"	中 川	文 I B (演習)	〔なお、文法、演習の両クラスで同じテキストを用いるから、かならず両クラスに出ること〕
"	朝 倉	文 I B (読本)	フランス語初級講読 教科書：朝倉・マシップ共著「パリの友人たち」(駿河台出版社)
"	中 村	理 I (文法)	慶応義塾大学編『新初歩フランス語(改訂版)』(白水社)
"	中 沢	理 I (演習)	〔なお、文法、演習の両クラスで同じテキストを用いることから、かならず両クラスに出ること〕
"	中 條	理 I (読本)	中川信・他著「こんにちははカロリース」(駿河台出版社) 83年版

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
初 級	石 川	家 I (文法)	里見・金子・瀧川共編 Marchons ensemble en français (フランス語をいっしょに)(三修社), 1500
"	金 子	家 I (演習)	〔なお、文法、演習の両クラスで同じテキストを用いるから、かならず両クラスに出ること。〕
"	内 田	家 I (読本)	サ・イラ(講読編) 甲南女子大学仏文研究室編(白水社) 1200
上 級		II	上級講読は、毎週2時間単位で通年2単位。各級とも毎週4時間4単位履修。
"	小 野	文 II A	教室で指示する。
"	中 沢	文 II A	教科書：素顔のフランス(二訂版)(朝日出版社)
"	中 村	文 II B	サン＝テグジュペリ「人間の土地」(白水社)
"	後 藤	文 II B	20歳のフランス La France a Vingt ans (駿河台出版社)
"	加 納	理 II	Y.-M. アリュール「続日本点描」(白水社) 850
"	後 藤	理 II	Le tour du monde en 80 jours (駿河台出版社)
"	石 川	家 II	Première neige(モーパッサン珠玉短篇集3), (第三書房) 600



科 目 内 容	教 官	学 年	学 業 講 義 内 容 特 徴
上級フランス語	中川 家 II		Halévy : 「星と少年」 (第三書房) ￥1100
高級フランス語	中川 III・IV		R. ジョン : 「ペラ B. の幻覚」 (行人社) ￥900
仏会話初級	エリザベト・石引	II～IV	ラガッシュ著 : 「リュパンとともに」 (第三書房) ￥1500
仏会話上級	シャンタル・滝野	II～IV	ビデオ・カセットを活用した授業をおこなう。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初級	水野 全	I	テキストは開講時に指示する。
〃	山本 全	I	〃
〃	山本 全	I	〃
上級	水野 全	II	チェーホフ等の短篇小説をテキストにして訳読をする。
〃	山本 全	II	テキストは開講時に指示する。
ロシア語会話	ライヤ 全 奥田		〃



中国語

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
中国語初級（読本）	佐藤	全 I	前期は語法・文型を中心に学習する。テキストは『中国語初歩』（大河内康憲編・改訂版）白水社 ㊦1200 後期は作品の講読。テキストは授業時に指示する。
中国語初級	藤山	全 I	語法の学習を中心に中国語を正しく読みとる力を養う。テキストは『基礎中国語』（興水優著）東方書店 ㊦980
中国語初級	平松	全 I	中国語の発音と基本文型の習得に重点をおいて学習する。テキストのほかに授業時にくばる練習問題を中心にしてすすめる予定。 テキスト：『中国語入門編』（頼惟勤他編 放送大学教育振興会）
中国語上級	中山	全 II	オーラル・メソッドによる授業を試みる。テキストは不要。
中国語上級	平松	全 II	文化大革命後早い時期に書かれた短編小説を読みながら、複雑な構文を学ぶ。 テキスト：『傷痕』（井上隆一他編 進明堂） ㊦1200
中国語高級	李	全 III	
中国語会話	李	全 II～IV	

保健体育科目

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
保健体育講義	興森加賀	I 前	女性体育の歴史と展望 健康及び身体に関する科学的現象 運動の習得と楽しさについての実証科学
体育実技	興森加賀 石黒三浦 富松須井 武未定	I・II	1年前期は基礎運動を行ない、1年後期及び2年前期において、ダンス、徒手、体操、マット運動、バスケットボール、バレーボール、テニス、卓球、バドミントンなどを行なう。
体育実技（第二コース）	興森加賀 片岡三川 片岡(暁) 阿部富田	I～IV	別に定める学内及び学外の実習計画に参加する。（スキー、水泳、オリエンテーリング、モダンダンス、選択球技など30時間）



留学生特別科目

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
日 本 事 情 II	池 田	外国人 学 生	教材は教室で指示する。
日 本 事 情 III	池 田	外国人 学 生	教材は教室で指示する。
日 本 語 I	西 原	外国人 学 生	内容は開講時に指示する。
日 本 語 II	池 田	外国人 学 生	文学作品を読む。読解・作文・文法・表現の力を養う。教材は教室で指示する。
日 本 語 III-A	池 田	外国人 学 生	VTR を用いて聴解力を養う。
日 本 語 III-B	西 原	外国人 学 生	内容は開講時に指示する。
日 本 語 IV	池 田	外国人 学 生	社会科学系の諸作を読む。読解・要約に力を入れる。教材は主としてプリントを配布する。

文 教 育 学 部



哲 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
哲 学 概 論	熊 谷	II～IV	哲学の基本的な諸志向を歴史に即して考察し、かつそれらの志向から生ずる諸問題について概観する。
西洋近世哲学史	羽 入	II～IV	近世哲学の歴史的特性の理解をめざし、とくに、イギリス、フランスの思想状況との関連を考慮しながら、ドイツの近世哲学について概説する。
哲学特殊講義 I	吉 田	III・IV	分類と理論との関係について論ずる。併せて、学問の法則が経験によってどの程度裏付けられるかを考える。
哲学特殊講義 II	土 屋	III・IV	哲学の具体的問題をいくつかとりあげてその解決の仕方を講義する。
哲学特殊講義 III	羽 入	II～IV	西洋近世哲学史を以て代替できる。
哲学講義演習 I	熊 谷	III・IV	フッサールの Ideen zu einer reinen Phänomenologie und phänomenologischen Philosophie, I を読む。
哲学講義演習 II	土 屋	III・IV	ウィトゲンシュタイン研究。 テキスト：L. Wittgenstein, The Blue and Brown Books, Oxford.
哲学講義演習 III	尾 田	II～IV	倫理学講義演習 II を以て代替できる。
哲学講義演習 IV	伊 藤	III・IV	デカルトの思想をまず概説し、「方法序説」を最初から精読する。仏語テキストで読むが英訳による参加も歓迎する。 R. Descartes, Discours de la méthode, petite édition par E. Gilson, J. Vrin.
哲学講義演習 V	羽 入	I 前	哲学入門ゼミ。現代哲学における代表的著作の講読を通して、哲学的な考え方の基礎的理解をめざす。



特 学 習

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
倫 理 学 概 論		II～IV	家政学部家庭経営学科小倉志祥教授「家政学原論Ⅱ」(前期)及び「家庭生活論」(後期)を以て代替できる。教科書:小倉編「倫理学概論」(以文社),「人間と家庭生活」(至文堂)
東 洋 倫 理 思 想 史		II～IV	中国文学科近藤光男教授「中国文芸思想史」を以て代替できる。
西 洋 倫 理 思 想 史	秋 田	I～IV	西洋倫理思想の源流にさかのぼり,古代ギリシア,ヘブライ思想を,ヘブライ思想(旧新約聖書の思想)に焦点をあてながら比較してとりあげる。参考書:秋田稔「聖書の思想」(塙新書)
日 本 倫 理 思 想 史	高 島	II・III	近世日本の思想を儒教を中心にして概説する。参考書:「日本倫理思想史研究」(佐藤・野崎編,ぺりかん社),「日本思想史入門」(ぺりかん社)
倫理学特 殊 講 義 I	高 島	III・IV	近世日本の思想をあつかう。本年は,中江藤樹を,演習形式で読む。テキストは岩波日本思想大系を使用する。
倫理学特 殊 講 義 II		II～IV 前	家政学部家庭経営学科竹内整一講師「家政学史」(前期)及び松田幸子講師「家政思想史」(前期)を以て代替できる。
倫理学講 義 演 習 I	高 島	III・IV	中世日本の思想をあつかう。本年は,軍記物語を中心に武士の物の考え方を探る。
倫理学講 義 演 習 II	尾 田	II～IV	カント倫理学研究。テキスト:Kant, Metaphysik der Sitten.
倫理学講 義 演 習 III	高 島	I 前	新入生のための倫理学入門ゼミ。テキストは相良亨『日本人の心』(東京大学出版会)など。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
倫理学講 義 演 習 IV	未 定	II～IV	未定
美学美術史特 殊 講 義 I	坂 本	II～IV	16～19世紀に至る西欧と非西欧地域との間に行われる美術の相互交流と,その特性について論述。例えば中南米植民地時代の美術,シノワズリー,洋風画等。美学概論として履修も可。
美学美術史特 殊 講 義 II (東洋美術史)	大 西	II～IV 前	屏風,襖絵,扇面等,日本の絵画に固有の画面形式の,古代・中世から近世初期にかけての形成過程をたどる。田辺講師「美学美術史特 殊 講 義 II」(後 期)と併せて履修のこと。分割履修は認めない。
美学美術史特 殊 講 義 II (東洋美術史)	田 辺	II～IV 後	古代オリエント美術史。古代オリエントにおける「円環」(婚約・結婚指輪等の変遷とその意味)。哲学科大西講師「美学美術史特 殊 講 義 II」(前期)と併せて履修のこと。分割履修は認めない。
美学美術史特 殊 講 義 III (美術史)	長 塚	II～IV	西欧中世美術,とくにロマネスクの聖堂装飾としてのフレスコ画,及び浮彫り彫刻を中心に講義をする。スライド使用,参考書等は授業中に紹介する。
美学美術史講 義 演 習 I	坂 本	III・IV	西欧版画史のテキスト講読。主なテキストは, J. Adhémar; <i>La Gravure</i> , 1973, Paris.
美学美術史講 義 演 習 II	坂 本	III・IV	卒論のための研究指導。
美学美術史講 義 演 習 III	坂 本	I～III	日本美術史における一主題を共同研究する。調査旅行を予定。
美学美術史講 義 演 習 IV	坂 本	I 後	美術史の初心者むけテキストの講読と講義。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
社会哲学概論	荒 川	II～IV	社会諸科学の発展の基礎にあるパラダイムの諸類型と、その現代における変容について考察する。
社会哲学特殊講義Ⅰ	宮 島	II～IV	文化と社会構造。文化の社会学的な基礎理論についてふれ、後半では文化を通しての差別と不平等がどのようにあらわれているかを教育の問題や、言語の問題、さらに階級構造などと関わらせて論じる。
社会哲学特殊講義Ⅱ	江 原	III・IV	近代化の問題について、社会構造の変動と生活世界の変動の二方向から論じる。テキストは授業中に指示する。
社会哲学特殊講義Ⅲ (共通科目・社会学特講Ⅱ)	小 林	II～IV	現代の社会福祉の具体的問題を取りあげ解説すると共に、基本的カテゴリーについて学ぶことを目的とする。
社会哲学講義演習Ⅰ	宮 島	III・IV	日常文化への社会学的・社会史的アプローチを考えるため、マルセル・モースの「身体技法」論(仏語)を講読する。テキストはコピーして配布する。
社会哲学講義演習Ⅱ	江 原	III・IV	社会問題、特に差別問題について。具体的な事実や現実に添って探究する。テキスト・データは開講時に提示する。
社会哲学講義演習Ⅲ	江 原	II・III 後	現代社会学理論の流れについて学習する。テキストは開講時に提示する。
社会哲学講義演習Ⅳ	宮 島	I 後	社会学、歴史学、宗教学にまたがるすぐれた古典であるマックス・ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を読み、討議をする。学生諸君の意欲的な参加を期待する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
法社会学(共通科目・法学特講)	広 渡	II～IV	「現代日本社会と法」というテーマのもとに、憲法上の諸問題、家族問題、都市、土地問題などを具体的な手がかりにしながら、現代の法状況を考察する。
社会調査(共通科目・社会学特講Ⅰ)	園 田	II～IV	前半は講義形式により、社会調査の意味や意義、その実際、計画と過程、データ蒐集の技法などについて概括的に説明し、途中からこれらと並行してテーマを選んで実際の調査を実習形式ですすめる。
経済史(共通科目・経済学特講Ⅰ)	橋 本	II～IV	日本における資本主義の発達について、欧米との国際比較、国際的關係を考慮して説明する。予め修得しておくべき科目はない。受講者が少なければ半ば演習形式を採用する予定。
経済理論(共通科目・経済学特講Ⅱ)	桜 井	II～IV 前	今年度は、現代のかかえる世界経済の諸問題のうちからいくつかを選び、その理論的把握を試みたい。教科書はとくに定めないが、参考書、資料については随時指示する予定。
経済理論(共通科目・経済学特講Ⅱ)	久保田	II～IV 後	価格理論を中心にミクロ経済学の基礎を取り扱う。さらに、多期間消費者行動、情報の経済学、資本市場理論についても検討をする。教科書：ハーシュライファー「価格理論」(上)
政治理論(共通科目・政治学特講)	藤 井	II～IV	近・現代の東アジアの国際政治を、日中関係に中心を置いて考察する。



史 学 科

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
史 学 概 論	伊 藤 青 木	Ⅱ・Ⅲ	〔前期〕過去の再構成に際し、歴史観のもつ意味は極めて重い。19世紀以降のヨーロッパはいかなる歴史観を生み、かつ育んだきたか。その一端を現在におけるそれらの受容と批判という観点から考察する。(伊藤) 〔後期〕日本の史学史に即し、古代からの歴史観を概観する。(青木) ＜注意＞史学概論は必ず通年で履修すること。
日 本 史 概 説 (1)	大 口	Ⅰ 前	近世以降の歴史を講述する。
日 本 史 概 説 (2)	梅 村	Ⅰ 後	古代の歴史を講述する。
東 洋 史 概 説 (1)	岸 本	Ⅰ 前	前近代中国社会の諸問題につき、研究史を紹介しつつ概説する。
東 洋 史 概 説 (2)	佐 伯	Ⅰ 後	中国の家族史を縦糸に、近現代に力点をおいて歴史的発展について考える。
西 洋 史 概 説 (1)	平 野	Ⅰ 前	アメリカ史を中心に近代の意味を考える。参考文献：有賀・大下編『概説アメリカ史』(有斐閣)
西 洋 史 概 説 (2)	中 野	Ⅰ 後	第三共和政期を中心にフランス労働運動史を概説する。
日 本 史 講 義 講 読 (1)	小 風	Ⅱ 前	明治、大正期の伝記史料の輪読。
日 本 史 講 義 講 読 (2)	大 口	Ⅱ 後	江戸時代の古文書の講読。
東 洋 史 講 義 講 読 (1)	岸 本	Ⅱ 前	明清時代の伝記史料を選読。
東 洋 史 講 義 講 読 (2)	佐 伯	Ⅱ 後	英文テキストを用いて、中国の近現代史の理解の方法を考える。

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
西洋史講義講読(1)	中 野	Ⅱ 前	M・アギュロンのソシアビリテsociabilite論を中心に、近代フランスの社会関係をめぐる論考を読む予定である。
西洋史講義講読(2)	山 本	Ⅱ 後	ヨーロッパ近現代史に関する英語文献の講読
日本史特殊講義(A)	青 木	Ⅲ・Ⅳ 前	遣唐使に関する諸問題。
日本史特殊講義(B)	大 口	Ⅲ・Ⅳ 後	幕末史の諸問題。
日本史特殊講義(C)	小 風	Ⅲ・Ⅳ 後	明治期における経済政策の展開を跡づけ日本の資本主義化との関連について考える。
日本史特殊講義(D)	五 味	Ⅲ・Ⅳ 前	中世史の諸問題。
東洋史特殊講義(A)	佐 伯	Ⅲ・Ⅳ 前	中国の近現代の経済政策史を、それぞれの主要な時点で如何なる意味を持ったかを考えたい。
東洋史特殊講義(B)	岸 本	Ⅲ・Ⅳ 後	清代の諸種の民間契約文書を解説しつつ、当時の庶民生活の一端を探りたい。
東洋史特殊講義(C)	姜	Ⅲ・Ⅳ	近代朝鮮と日本の関係を概説する。19世紀後半以降の両民族の相関関係をのべ、そのうえで両民族が歴史を共有した朝鮮の植民地時代を中心に講義する。植民地国家大日本帝国の成立とその日本史上での位置づけを植民地の側から再発見していくことにつとめたい。
東洋史特殊講義(D)	松 井	Ⅲ・Ⅳ	世界経済システム論、低開発・植民地・南北問題など、一連の問題を頭において、世界史再考を試みる。ただしとりあげる対象を広げすぎず、イギリス支配下の南アジア史に集約してゆく予定である。



史 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
西洋史特殊講義(A)	平 野	Ⅲ・Ⅳ 後	アメリカ南部史の諸問題。
西洋史特殊講義(B)	山 本	Ⅲ・Ⅳ 前	ナチズム体制の社会史。今回は女性にかかわる領域を中心とする。
西洋史特殊講義(C)	青 山	Ⅲ・Ⅳ	アーサー伝説の史的研究：アーサー伝説の形成と発展を、「歴史のアーサー」「伝説のアーサー」及び伝説の「ロマンス化と歴史化」の三点から跡づける。
日本史学演習(A)	青 木	Ⅲ・Ⅳ	「続日本紀」の輪読。
日本史学演習(B)	大 口	Ⅲ・Ⅳ	江戸時代の名主の書いた「公私日記」の輪読。
日本史学演習(C)	小 風	Ⅲ・Ⅳ	殖産興業政策関係史料の講読。
東洋史学演習(A)	佐 伯	Ⅲ・Ⅳ	各人の専攻に関連のある文献の分析及び方法について考える。
東洋史学演習(B)	岸 本	Ⅲ・Ⅳ	清代貿易関係史料の講読。
西洋史学演習(A)	平 野	Ⅲ・Ⅳ	前期はアメリカ史の基本的な史料を講読し、後期は出席者が各自選んだテーマについて報告する。
西洋史学演習(B)	山 本	Ⅲ・Ⅳ	ドイツ政治史に関する文献を扱う。
考古学通論	鷹 野	Ⅲ・Ⅳ	先史考古学の方法と、日本の先史時代社会の諸問題について。
史 跡 調 査	仲 野	Ⅲ・Ⅳ 前	史跡の現状と調査方法について概説し、調査旅行を行なう(10月初旬に北海道東部の予定)。

地 理 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
地理学概論	浅 海	Ⅳ 前	地理学の原理と方法について考える。内外の学説史と現代地理学の用語を検討し、最近の地理学研究例を評価・批判しながら、地理学とは何かを考える。
地理学概説	井 内	Ⅰ 前	地理学専攻学生を対象に、地理学の対象・方法を現代世界の具体的な問題と結びつけて概説する。
地 誌	式 部	Ⅲ 後	日本地誌、外国地誌の実例を基礎として、地誌学の発達過程、地域性の意義、地誌の様式、地域区分の方法などについて述べる。
経済地理学Ⅰ	内 藤	Ⅱ 前	戦後の日本を実例にとり、総経済発展に対応した経済現象の分布変動を明らかにし、あるべき土地利用と地域構造について検討する。
集 落 地 理 学	井 内	Ⅱ 前	人文地理学の対象としての集落研究の視点、方法について、村落・都市の立地、発展、構造機能を中心に講ずる。
地 形 学 Ⅰ	式 部	Ⅱ 前	地形を系統的に理解できるよう、地形形成営力、成因的分類などについて解説し、その景観論的、環境論的意義にもふれる。テキスト：式著「地形地理学」(古今書院)
地 質 学	浅 海	Ⅱ 前	地形学・土壌学・その他地学全般の分野の基礎として、鉱物学・岩石学・層位学・地史学の概要を述べる。
気 候 学 Ⅰ	三 上	Ⅱ 前	気候の空間スケールと時間スケールの対応関係について、微気候からグローバル気候に至るまで、各種の具体例にもとづき考察する。



地 理 学

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
地 図 学 式		I 前	地図記号、地図投影など地図に関する基礎的知識、主題地図、地図判読、地図計測などについて解説する。一部、演習作業を伴う。
地 図 学 演 習	栗 原	I 後	地図的表現およびその分析についての演習、テーマごとに作業結果を必ず提出すること。
日 本 地 誌 I	内 藤	III 前	日本の各地方の自然的人文的特色を、典型的地域の事例を通じて解説する。
日 本 地 誌 II	未 定	III 後	
外 国 地 誌 I	高 橋	II・III 前	ヨーロッパのうち、とくにフランスの自然環境・人文環境そして地域構造の特性に関して講義する。参考書：高橋伸夫著「フランスの都市」(二宮書店)
外 国 地 誌 II	栗 原	II・III 後	南ヨーロッパの地域問題(経済格差、移民労働力移動、国際的観光業の発達、国内地域格差、地域開発政策、地域主義等)を中心に各国の地誌を講義する。
地 理 学 演 習 I	栗 原	III	P. Jackson and S. J. Smith, "Exploring Social Geography", 1984の輪読を中心に、基本的な邦文論文も取りあげ、社会地理学についての討論を行う。
地 理 学 演 習 II	三 上	III 前	気候学に関する論文の輪読。
地 理 学 演 習 II	浅 海	III 後	地質・地形・土壤に関する学際的研究の諸例を、文献紹介講義の方法で検討する。
地 理 学 演 習 III	式 内 藤	III	内外の文献、資料にもとづいて、地誌作成について研究する。テキスト：B. E. Price & E. Tweed: Geographical Studies in North America (Oliver & Boyd), 前期：内藤、後期：式

国 文 学 科

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
歴 史 地 理 学	木 下	II・III 後	歴史地理学を過去の時の断面における地域空間の復元という立場から、古代の日本を例にして、律令国家の地域計画の様相を復元的に考察する。
経 済 地 理 学 II	内 藤	III 前	主要産業の立地展開を概観し、経済地域の形成と構造・機能を考察する。
都 市 地 理 学	井 内	III 後	都市に関する基礎的概念、都市の内部システム、都市群システム、及び都市問題と現代世界、その他について。
土 壌 地 理 学	浅 海	III 前	土壌の生成分類論、世界・日本の土壌型分布について。
地 形 学 II	式	II 後	気候帯によって異なる地形々成営力と形成過程を考察し、地形と他の自然要素との関連を解説する。さらに地形分類、地形発達史、地形分析などにおよぶ。
気 候 学 II	三 上	II 後	「気候変動」をテーマに、異常気象や長期的気候変動の実態とそのメカニズム、将来の気候予測などについて解説する。
写 真 地 理 学	A	III 後	空中写真に関する基礎的知識・写真測量および写真判読について調査例をもとに解説し、空中写真、宇宙画像の地理的分野への応用面にもふれる。
自然地理学実験	三 上	III 前	野外における気候の観測実習と室内におけるデータ処理実習。
自然地理学実験	浅 海	III 後	土壌物質の物理・化学性の分析実験、土壌調査法および岩石・土壌の採集と鑑定法。
計 量 地 理 学	内 藤	III 後	地理的分布とその変動の計測と分析及び表現法について論述する。



科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
陸 水 海 洋 学	三 上	Ⅱ・Ⅲ 前	地球の水循環、湖沼・海洋の環境汚染などを中心に、水と人間生活のかかわりを考える。
地 理 学 特 講 Ⅱ	未 定	Ⅱ・Ⅲ 後	
地 理 学 特 講 Ⅳ	大 友	Ⅱ・Ⅲ 前	地理学における人口分析の方法について講義する。人口構造、人口動態、人口移動、人口分布の地域的分析の方法がその主な内容である。
地 理 学 特 講 Ⅴ	未 定	Ⅱ・Ⅲ 後	
地 理 学 演 習 Ⅳ	全 員	Ⅳ	卒業論文作成に関し、各指導教官にわかれて演習がもたれるが、年3回程度の教官全員による合同ゼミがある。
地 理 学 巡 検	全 員	Ⅰ～Ⅲ	3年生対象に3泊4日(必須)、2年生対象に2泊3日(必須)の巡検の他に、各学年を対象に1日巡検が数回行われ野外における観察、資料採集などの研究方法をを現地指導によって習得させる。

国 文 学 科

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
上古中古日本文学史	平 野	Ⅰ	古代の日本文学の発生とその史的展開を概観する。
中世日本文学史	三 木	Ⅲ	中世日本文学の史的展開を概観する。
近世日本文学史	堤	Ⅲ	近世日本文学の史的展開を概観する。
近代日本文学史	浅 井	Ⅲ	明治末から大正期の文学を概観する。
国 語 学 概 論	白 藤	Ⅰ	国語学研究の諸分野について概観する。 教科書：築島裕著「国語学」(東大出版会)
国 語 法 概 説	市 川	Ⅲ	日本文法の概説。
国 語 史 概 説	青 木	Ⅱ	Ⅰ 古辞書の歴史と、利用上の問題について概説する。 Ⅱ 古典解釈のための、文法上の諸問題を取り上げる。
国 語 表 現 法	市 川	Ⅲ	文章表現の理論と実際について考察し、文体論にも及ぶ。
国文学講義講読Ⅰ	犬 養	Ⅱ	「源氏物語」松風以後を精読する。
国文学講義講読Ⅱ	平 野	Ⅲ	和泉式部日記を講読する。
国文学講義講読Ⅲ	三 木	Ⅱ	「徒然草」を扱う。
国文学講義講読Ⅳ	堤 浅 井	Ⅰ	前期は近世の文学作品を、後期は近代文学の作品を取り上げて講読する。
国文学講義演習Ⅰ	犬 養	Ⅲ	王朝女流日記を取り上げて、中古文学の基礎的研究を行う。
国文学講義演習Ⅱ	平 野	Ⅱ	古典文学研究のための基礎的演習。写本の読解力をつける。テキストはプリントで配布する。仮名変体集(新典社)を用意すること。



科 学 文 国

科 学 目 内	教 官	学 年	学 講 義 内 目 容 科
国文学講義演習Ⅲ	三 木	Ⅲ	「今物語」を扱う。
国文学講義演習Ⅳ	堤	Ⅲ	近世小説のうちより取り上げて、近世文学の基礎的研究について演習を行う。
国文学講義演習Ⅴ	浅 井	Ⅲ	夏目漱石の小説を読む。テキストは授業前に提示する。
国語学講義演習Ⅰ	白 藤	Ⅲ	前年度に引き続き、「水言抄」（江談抄の一本）の読解を行う。
国語学講義演習Ⅱ	市 川	Ⅱ	語誌の実証的考察。
国文学特殊講義Ⅰ	小 野	Ⅲ・Ⅳ	万葉集最大の歌人であり、最も近代的な万葉歌人である大伴家持の、その「人」と「歌」を、その時代において講義してゆきたい。
国文学特殊講義Ⅱ	上 野	Ⅲ・Ⅳ	柿本人麻呂を中心に古代における抒情の展開を考える。
国文学特殊講義Ⅲ	吉 岡	Ⅲ・Ⅳ	はじめに源氏物語全体の構造について概説的な話をし、次に、若菜上下・柏木巻の物語について、要所を読みながらその主題や創作方法を追求する。教科書：小学館『源氏物語』四
国文学特殊講義Ⅳ	鈴 木	Ⅲ・Ⅳ	南北朝時代の歴史と文学との関り合いを、同時代および後代の作品（具体的には軍記物語・歴史物語・随筆日記・説話・物語草子・謡曲等の諸作品）を取り上げて考察する。
国文学特殊講義Ⅴ	柴 田	Ⅲ・Ⅳ	わが国の古典資料を取扱う上で必要な、書誌的事項について概説し、考察する。 参考書：山岸徳平著「書誌学序説」（岩波書店）、幸田成友著：「書誌学の話」（青裳堂書店）

学 国 中 ・ 学 文 国 中 科 学 文 国 中

科 学 目 内	教 官	学 年	学 講 義 内 目 容 科
国文学特殊講義Ⅵ	原	Ⅲ・Ⅳ	近世演劇史について概説する。教科書：神保五弥編「近世日本文学史（有斐閣双書）」
国文学特殊講義Ⅶ	国 松	Ⅲ・Ⅳ	大正期から昭和期にかけての文学の流れを、学生諸君といっしょに確かめてみたいと思っている。とりあえず、新感覚派の出版あたりからはじめる予定である。
			Ⅰ 山 中 Ⅲ 皆 斯 学 文 国 中
			Ⅱ・Ⅰ 瀬 谷 史 思 思 文 国 中
			Ⅱ・Ⅰ 瀬 谷 Ⅰ 史 学 文 国 中
			Ⅲ・Ⅱ 田 貴 Ⅱ 史 学 文 国 中
			Ⅲ・Ⅱ 幸 皆 斯 学 文 国 中
			Ⅵ～Ⅱ 瀬 谷 Ⅱ 皆 斯 学 文 国 中



外国文学科 中国文学・中国語学

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
中国語学演習Ⅰ	中山	I	中国語の初歩 作文を中心として語法を学習する。テキスト：標準中国語作文正・統編。授業時に配布する。
中国語学演習Ⅱ	佐藤	I	中国語の基本的な語法・文型を学習するところから開始し、後半は作品の講読を行う予定。テキストは劉珣編著『漢語初階』（光生館） ¥1200
中国語学演習Ⅲ	中山	I	中国語の初歩 作品講読を中心とする。テキストは授業時に指示する。
中国文芸思想史	近藤	I・II	五経（易・書・詩・礼・春秋）に見える文芸思想を中心として、中国経学史（古典解釈史）を概説する。
中国文学史Ⅰ	佐藤	I・II	中国の古典文学を概観する。『詩経』から清末までの、主として詩文の流れを、具体的な作品を読みながら講義する。作品はプリントを配布する。
中国文学史Ⅱ	芦田	II・III	「五四」以後から、解放前後までの中国近・現代文学史の流れを、適宜具体的作品・文学評論をとりあげながら講義する。
中国文学講義演習	近藤・頼	I	本講は中国語の履修を前提としない。前期に漢語の基礎語法を理解に導き、後期はその応用演習を行う。履習学年指定は、近接学科学生の場合、I～IVみな可。担当は前期近藤、後期頼。
中国文学演習	李	II・III	
中国文学講義講読Ⅱ	佐藤	II～IV	「中国現代詩研究」 現代詩の流れを通観すると同時に、主要な詩人の作品を講読する。20年代から40年代の解放前の作品が中心となる予定。テキストは授業時に指示する。

英語英・学文英 持学文関長

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
中国文学講義講読Ⅲ	近藤	II～IV	「清代散文」 清朝学人の劄記および別集から資料を取り、古典散文の読解を通じて、基礎学力の充実を図る。
中国文学特殊講義Ⅱ	伊藤	III・IV	「中国古典小説研究」 中国近世（宋一晚清）の小説史を講ずる。魯迅の『中国小説史略』該当部分を素材として、その後の研究を補いつつ進めたい。（教材は当方で用意する。）
中国語学演習	李	II～IV	
中国語学講義講読Ⅰ	中山	II～IV	「清朝章回小説」 前期は『紅樓夢』を、後期は『儒林外史』を味読する。
中国語学講義講読Ⅲ	李	II～IV	
中国語学特殊講義Ⅱ	田中	II～IV	「中国書法論」 中国における文字の発生・変遷について形体・書法を中心に考察する。
中国語学概論	頼	II～IV	中国の文字・音韻の概論・概説。文字学・音韻学の歴史についても論及する。
中国語作文Ⅰ	中山	II・III	前半は「造句」に重点をおき、後半は「作文」を強化する予定。毎回高度な課題を課す。
中国語会話Ⅰ	李	II・III	



外国文学科 英文学・英語学

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
英 文 学 演 習 I	今 西	I	R. Brown (1973) <u>A First Language: The Early Stage</u> を読む。
英 文 学 演 習 II	酒 本	I	Hawthorne, <u>Rappaccini's Daughter and Other Tales</u> (小英文双書, 研究社, 750) 作者ホーソーンについての予備知識をあらかじめ得ておくこと。
英 文 学 演 習 III	富 山	II	Thomas Hardy: <u>The Mayor of Casterbridge</u> を読む。テキストは授業で指示する。
英 文 学 演 習 IV	野 島	II	J. D. Salinger: <u>The Catcher in the Rye</u> テキストは助手を通して購入すること。
英 文 学 演 習 V	宮 川	III	Shakespeare: <u>Macbeth</u> (研究社英文学叢書, 1,600)
英 文 学 演 習 VI	海老根	III	Henry James: <u>The Turn of the Screw</u> (Norton Critical Editions) 研究室で購入。
英 文 学 演 習 VII	海老根	IV	T. S. Eliot の詩と批評 現代英米文学セミナー双書④ T. S. Eliot (山口書店) 2,000
英 文 学 演 習 VIII	富 山	IV	19世紀イギリスの小説を読む。テキストは未定。
英 文 学 演 習 (他学科対象)	外 山	II~IV	Shakespeare: <u>Julius Caesar</u> (研究社) の演習。
英 文 法 演 習	宮 川	I	城森正夫: <u>A New College English Grammar</u> (大阪教育図書) 1,400

外国文学科 英文学・英語学

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
英 作 文 演 習 Ia	西 尾	I	英語の総合的な力をつけることを目的とする。Significant Scribbles (Lingual House) World Events 85 (金星堂) Communicative Grammar of English (Longman)
英 作 文 演 習 Ib	三 枝	I	自分の考えを自分の英語で書く——これがこのコースの目標です。毎回レポート用紙1枚程度の英語を書いてもらうのでレポート用紙持参のこと。教科書はありません。
英 作 文 演 習 II	ルイス	II	Mary H. Chappel: <u>English Composition Work-Book</u> (篠崎書林)
英 作 文 演 習 III	西 尾	III	英語の総合的な能力をつけると同時に、論文の書き方について学ぶ。How to Write Themes & Term Papers (Barron's Educational Series)
英 会 話 演 習 I	ルイス	I	B. Hartley & P. Viney: <u>American Streamline Connections</u> (Oxford University Press)
英 会 話 演 習 II	ルイス	II	B. Hartley & P. Viney: <u>American Streamline Destinations</u> (Oxford University Press)
英 文 学 史 I	外 山	II	アンソロジーによってテキストにふれながらロマン派以降の英文学史の流れをたどる。
英 文 学 史 II	野 島	III	研究室作成のアンソロジーを使いながら, Chaucer から18世紀まで講義する。副読本として, 斎藤勇「英文学概説」(研究社, 1,600)を使う。



科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
アメリカ文学史	酒 本	Ⅱ	福田陸太郎編『アメリカ文学思潮史』(中教出版, ㊦2,000)
英文学特講Ⅰ	上 島	Ⅲ・Ⅳ	イギリスロマン派詩人研究。作品の講読と鑑賞を通じてロマン派とは何であったかを考える。テキスト:『ロマン派詩選』(研究社)
英文学特講Ⅱ	大 橋	Ⅲ・Ⅳ	二十世紀アメリカ小説について、できるだけ具体的に作品などを読みながら、考えてみる。
英文学特講Ⅲ	酒 本	Ⅲ・Ⅳ	アメリカ・ルネッサンス期の小説家 Poe, Hawthorne, Melville の主な作品の読みと分析。最初はボウで、テキストは E. A. Poe, <i>Tales and Poems</i> (開文社 ㊦720)
英語学概論	今 西	Ⅱ	Akmajian et al. (1984 <sup>2</sup> ) Linguistics を使用し、英語に関して音韻、統語、意味の各部門について、共時的及び通時的観点から詳しく考察を行う。
英語学特講Ⅰ	宮 川	Ⅲ・Ⅳ	テキスト使用せず。
英語学特講Ⅱ	今 西	Ⅲ・Ⅳ	英語学専攻の4年生を対象とし、現代英語における統語構造の諸問題に関して検討を行う。
英語音声学	鈴 木	Ⅰ	英語音声学の基礎的な理論と実際を研究する。Text: <i>Living English Speech</i> (Longman) 前期は英文科の学生を対象に後期は他学科の学生を対象にする。

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
フランス語演習Ⅰ	石 川	Ⅰ	朝倉剛「生きたフランス語入門」(三訂版)第三書房, ㊦1,400
フランス語演習Ⅱ	石 川	Ⅰ	同 上
フランス語演習Ⅲ	中 川	Ⅰ	鈴木豊「速修ふらんす読本」駿河台出版社 ㊦1,000
フランス語演習Ⅳ	ジャンタル滝野	Ⅰ	《C'est le printemps》(CLE international), 《Archipel》(CREDIF) を使って、会話練習を行う。
フランス語演習Ⅴ	ジャンタル滝野	Ⅰ	同 上
仏会話演習Ⅰ	ジャンタル滝野	Ⅱ	ビデオ・テープ(作品名は未定)に基づいて、会話練習をおこなう。なおテキストとして“Le tour de Gaule d'Astérix”(漫画)を使用する。
仏会話演習Ⅱ	ジャンタル滝野	Ⅲ・Ⅳ	Butor: “La Modification”
仏文学演習Ⅰ	石 川	Ⅱ	フランス心理小説読解, 前期は邦語訳で中篇を二, 三作輪読し, ディスカスする。後期は原語のテキスト講読の予定。対象作品は第一回目の授業で指示する。
仏文学演習Ⅱ	中 村	Ⅲ・Ⅳ	ジード研究。Le Prométhée mal enchainé から始める。テキストは研究室で用意する。
仏文学演習Ⅳ	中 川	Ⅲ・Ⅳ	ディドロの小説「これはコントではない」(前期), 「修道女」(後期)を読む。テキストは研究室で用意する。



科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
仏文学演習Ⅴ	石川	Ⅲ・Ⅳ	前期にスタンダール「赤と黒」、後期にフローベール「感情教育」を読みながら、この二小説の世界を比較考察する。テキスト Le Rouge et le Noir は仏文研究室で販売。
仏作文練習	ジャンタル滝野	Ⅲ・Ⅳ	灰谷健次郎『兎の眼』理論社刊
仏文学講義演習	ジャンタル滝野	Ⅱ	Simenon : “Le chien jaune”
仏文学講義演習	小野	Ⅱ	「基礎フランス語作文法」小林路易著 白水社
仏文学史	加納	Ⅱ	「フランス文学史」(白水社)を使ってフランス文学の歩みを概観する。平行して主要作品のテキスト(コピー)を読む。
仏語学概論	木下	Ⅲ・Ⅳ	前年はフランス語の文法史を遡る形で話を進めたので、本年度は現代フランス語の文法的諸問題をとりあげ、そこに伏在する規則をどう考えたらよいか分析してみることにする。参考書は随時指示。
フランス事情Ⅰ・Ⅱ	中村	Ⅱ	『ロベール・ギランの新日本事情』(朝日出版社)によって現代の日仏比較から始める。その後は研究室でプリントを配布する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
フランス文明Ⅰ・Ⅱ	細 川	Ⅲ・Ⅳ	古伝語の入門として『アレクシ聖者伝』を読みます、おもしろいから、聖者伝が意外に抹香くさくないのは、聖者になってからのことではなく、聖者になるまでのこと、つまり主人公が人間の苦悩を乗り越えていくさまが、人衆にわかるように生き生きと描かれているためでしょう。テキストその他は教室で頒布します。
			Ⅰ～Ⅱ 講義の初期の小論文をいくつか選んで読み、それらと「民主主義教育」の基本的諸概念との関係について考察する。
			Ⅲ～Ⅳ 教育勅諭高。編纂委員会が教育方針の明確性、とは何か、そのことを、20世紀初頭イギリスで開発した「子どもたちの学校スタイル」など日・英の対比で取り上げ、編纂委員会が教育勅諭
			現代社会における家族と家庭教育をテーマにする。
			Ⅴ～Ⅵ 森 編纂委員会が教育勅諭を直方方法論に重点をおき、学校教育における教育方法と社会教育方法の両方について講述する。とくに成人の学習の
			Ⅴ～Ⅵ 正木類と森 編纂委員会が教育勅諭に對してアメリカの例から学ぶ。
			判例教育論。教育勅諭の歴史的発展を論じて、教育行政の問題点を指摘。
			明治の憲法をうけて教育勅諭の諸判例を
			Ⅴ～Ⅵ 正木類・富 編纂委員会が教育勅諭人事、児童生徒、学校関係等の事例を根拠として解説上の要約を編纂委員会に
			あわせて教育学的考察を加える。



教育学科・教育学

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教育研究入門	全教官	I 前	教育学コースの全教官が、それぞれの専門的な立場から、教育学を学ぶ視点・方法について述べ、教育学研究の手引きを行う。
教育哲学概論	上 野	I	教育とはなにかを考えるための基礎的概念や方法についての概説。
教育史学概論	寺 崎	II～IV	教育という人間関係の一部たる人間の関係行為、それを歴史的・構造的に把握する方法論とは何かということを意識しつつ、近代社会における「子どもと教育」観の構造史を概説したい。
教育社会学概論	高 橋	II～IV 前	教育社会学の基本的な考え方や方法について解説し、人間の発達について社会学的な見解を紹介する。
教育社会学概論	河 野	II～IV 後	前期の人間発達の社会学を受けて、学校の社会学、教育改革の社会学について考究する。
教育行政学概論	森	II～IV 前	教育の現代的問題の検討を通して、教育制度、行政の解説を行う。 参考書：森「現代の教育行政」協同出版
教育行政学概論	杉 原	II～IV 後	導入の段階では、教育法規をみながら現行の制度を勉強する。そのうち、行政学、財政学、経済学などの観点を加え、理論的理解を深めていくようにする。 テキスト：相良惟一編『学校六法』など。
教育方法学概論	宮 原	II～IV	近代の教育方法・教育課程の歴史を概観する。教育方法・教育課程の基本（鍵）概念を討論などを通して明確化する。 参考書：宮原他共著『子どものための学校—イギリスの小学校から』（東大出版会）

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
社会教育学概論	小 川	II～IV 前	現代の社会教育をめぐる諸問題を理論的、実践的に解明していくという観点に立っての社会教育学への導入、比較社会教育的観点も加えてみてゆきたい。
博物館学概論	鷹 野	II・III	博物館の歴史・目的・定義・活動・法規・組織、資料の取り扱いなどについて概説する。
教育哲学講義演習	松 野	III・IV	ジョン・デューイの初期の小論文をいくつか選んで読み、それらと「民主主義と教育」の基本的諸概念との関係について考察する。
教育史学講義演習	寺 崎	III・IV	近代公教育の現実および新たな〈公〉教育形成の可能性、とは何か。そのことを、20世紀初頭イギリスで瀕死した「子どもたちの学校ストライキ」、など日・英の学校反乱を窓口として考えてみたい。
教育社会学講義演習	河 野	II～IV	現代社会における家族と家庭教育をテーマにする。
社会教育学概論	木 全	II～IV 後	社会教育方法論に重点をおき、学校教育における教育方法と社会教育方法の同異について講述する。とくに成人の学習の特質に注目しその援助、促進の方法、技術についてアメリカの例から学ぶ。
教育行政学講義演習	森	II～IV 前	判例教育論。教育裁判の歴史的発展を通して、教育行政の問題点を探る。
教育行政学講義演習	井 上	II～IV 後	前期の講義をうけて教育裁判の諸判例を具体的に検討する。教育課程行政、教職員人事、児童生徒、私学関係等の事例を取り上げ解釈上の主要な論点を明かにしあわせて教育学的考察を加える。



[illegible]



教育学科・心理学

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
心 理 学 概 論	藤 永	I	心理学についての一般的イメージを手掛りとして、その学問的性格、歴史、方法、中心問題、現代の動向などについて基礎的な概観を行う。
数理統計学講義演習	須 賀	I	記述統計学、及び推測統計学の概説と演習。マイクロ・コンピュータによるプログラミングの実習を兼ねる。
心理学講義演習 I	内 田	I	T.G.R. バウワー『ヒューマンディベロプメント』（ミネルヴァ書房）を講読し、討論することを通じて、人間の発達過程についての理解を深める。
実験心理学演習 I	須 賀 内 藤	II	心理学実験の手法、及び実験結果の分析手法についてさまざまな角度から演習する。
実験心理学演習 II	藤 永 春日 内 田	III	心理学実験の基礎的技法、実験計画などを実習し、後期は小グループに分れて実地の研究を行い、実験的研究の基礎技能を養う。心理学実験 I の既習者18人までに限る。
精 神 測 定 学	内 藤	II	心理学で用いられる、測定方法、尺度構成、データ処理について解説する。後期は、プログラム実習を含む。
心理学講義演習 II	内 藤	II	内外の文献を講読し討論を行う。社会化をテーマとする。
教 育 心 理 学	内 藤	II・III	教育心理学の性格を、主に道德教育の心理学的基礎を中心的なテーマとして解説する。
人 格 心 理 学	春 日	III・IV	人格の発達、人間行動のメカニズム、行動と精神病理、治療モデル等について考える。

発達心理学・障害児心理学

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
発 達 心 理 学	藤 永	II・III	現代発達心理学の学問的性格、現在の中心問題とその動向などについて概観する。参考書：藤永保「発達の心理学」（岩波新書）同「幼児の発達と教育」（有斐閣新書）
認 知 心 理 学	小谷津	II～IV	「よりよく生きること」に向けての認知心理学についてともに考えてみたい。テキストはとくに用いない。参考文献は必要に応じて紹介する。
心理学講義演習 III	春 日	III	人格・適応、精神病理の諸問題について文献の講読・討義を中心に考える。
視 聴 覚 教 育	坂 元	II～IV	前期は、視聴覚教育を含みつつ発展している教育工学の歴史、理論、方法を講述し、後期は、授業設計、授業分析、机上授業、マイクロティーチング、教材作成、教育テレビ番組制作の実習ならびに見学を行う。 ※なお、学芸員資格取得としては前期2単位をあてる。ただし教育学科の学生は必ず通年4単位で履修すること。
言 語 心 理 学	内 田	III・IV	第1、人間の言語の特質と、それを獲得する前提条件は何か、第2、言語と思考や認知、言語と人格など言語とその諸機能との関連、第3、言語理解と生成の観点から言語心理学を講義する。
心理学特殊講義 I・II	須 賀	III・IV	1 運動視知覚の成立に関与する諸要因の研究。 2 学習（経験）、成熟、発達、等の諸概念の相互関係の研究。
心理学特殊講義 III・IV	上 野	II～IV	発達に遅れやかたよりをもつ子どもたちの診断と指導について、発達心理学的観点からの知見を深める。精神遅滞、自閉症、学習障害といった臨床例をとりあげつつ、考察を展開していきたい。



舞踊教育学科・舞踊教育学

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
舞 踊 原 論	市 川	Ⅲ 前	舞踊はどうして生まれたか。舞踊とは一体何であるのか。舞踊は私達にとって必要かどうか。舞踊はおもしろいものか。舞踊はどうしたら理解できるか。舞踊を作るにどうしたらよいか。
舞 踊 原 論	末 定	Ⅲ 後	
舞 踊 教 育 学 概 論	片 岡	Ⅰ 後	舞踊教育の概念とそこに含まれる主要問題を、比較舞踊教育の観点から概説する。
舞 踊 学 特 講	片 岡	Ⅱ 前	現代社会の特徴と身体表現及び舞踊文化の意味・機能について論ずる。
舞 踊 教 育 学 実 験 演 習	片 岡	Ⅲ 後	舞踊の教育学的側面を中心に、歴史及び研究法の概観を行い、最終的には課題研究を実施する。
舞 踊 教 育 学 実 験 演 習	末 定	Ⅲ 後	
舞 踊 学 実 習 Ⅰ A	石 黒	Ⅰ 後	モダンダンステクニックⅠ。モダンダンスの基礎を修得する。
舞 踊 学 実 習 Ⅱ A	片 岡	Ⅱ～Ⅳ 後	モダンダンステクニック中級。正しい身体の動かし方を理解し、動きの質との関連で身体表現技術を習得する。
舞 踊 学 実 習 Ⅱ B	小 島	Ⅰ～Ⅳ 前	スペイン舞踊の中でフラメンコに限定し、その基礎知識を得るために基本的なテクニックを分解しながら、フラメンコのコンパス、リズムについて触れ、同時に、小作品を踊る。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
舞 踊 学 実 習 Ⅲ B	江 川	Ⅰ～Ⅳ 前	クラシックバレエの実技を通じて構造の分析と表現を習得することを目的とする。
舞 踊 学 実 習 Ⅳ A	石 黒	Ⅳ 前	モダンダンステクニックⅢ。課題による実験的創作を通して創作場面における種々の問題点を討議し解決する。
舞 踊 学 実 習 Ⅳ B	石 黒 片 岡	Ⅳ 前	舞台上演法。舞台製作に関連する諸演出（音楽・美術・照明等）の研究と舞台での作品上演。
舞 踊 教 育 学 実 習 Ⅰ A	片 岡	Ⅰ 前	舞踊教育方法入門。ダンス学習の基本的段階に視点をあて、動きと遊び、動きとリズム、動きとイメージを課題とした実習を通して、創作学習の内容と方法をさぐる。
舞 踊 教 育 学 実 習 Ⅰ B	石 黒	Ⅱ 後	イメージと動きの関連を、即興法、音楽やボディデザインなどの観点から実習する。
舞 踊 教 育 学 実 習 Ⅱ A	片 岡	Ⅲ 後	舞踊構成法。舞踊の時間的、空間的構成法について学習し、作品のまとめ方（特に群舞表現を中心に）について課題研究を行う。
舞 踊 教 育 学 実 習 Ⅱ B	片 岡	Ⅱ 前	舞踊教育方法（中・高）の実習。舞踊の特性にもとづいた学習及び指導方法の検討を試みながら実習を行う。
舞 踊 教 育 学 実 習 Ⅲ B	石 黒	Ⅲ 前	舞踊教育上の問題をとりあげ、課題解決を通して望ましい指導法を学ぶ。
舞 踊 伴 奏 法 Ⅱ	柳 沼	Ⅱ	動きのためのリズムと舞踊のための音楽、動きのための打楽器の奏法を通して「リズム」を考える。舞踊における音楽の機能をさぐる。



科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
遊 戯 学 概 論	加 賀 石 黒	I 前	子どもの身体遊戯を材料として、遊びについての諸理論と実際、スポーツとの関係などを概観する。又、舞踊の遊戯性についてふれる。参考書：日本体育協会日本スポーツ少年団（編）「あそび百科—子供の身体遊戯—」（ぎょうせい）
遊 戯 学 実 験 演 習	石 黒	III 前	舞踊運動の表現的特質について、リズム・イメージ・美的形式の観点から実験をすすめる。
遊 戯 学 実 験 演 習	加 賀	III 後	身体運動による自己表現とその理解に関する実験心理学的接近法についての実習を行う。また、新しい身体遊戯ないしスポーツの開発を試みる。
運 動 美 学	石 黒	II～IV 後	バレエ、モダンダンスに関する文献をコミュニケーションの観点から論究する。
動 作 学 概 論	森 下	I 前	ヒトの姿勢や動作の発達について解説する。
動 作 学 実 験	大 道	III 前	運動・動作を客観的に記述するための手法について概論し、日常生活や芸能、スポーツ場面に具体例を求めて実験・測定技術を習得する。
動 作 学 実 験	森 下	III 後	身体活動や情動にともなう、身体諸反応について実験技術を実習し、科学的認識を深める。
解 剖 学	森 下	II 前	人体の構造を、運動や発育との関連において述べる。
運 動 生 理 学	森 下	II 後	人体の機能を、運動や体力との関連において述べる。
病 理 学	奥 野	I～IV 前	体育教育の場で教師が直面する可能性の高い疾病について、病態の成立と経過を述べ、あわせて第一次医療における疾病管理方針を概説する。

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
衛 生 学	吉 田	II～IV 後	学校環境衛生を基礎にして、環境と人間との関係を健康とパフォーマンスの面から学習する。また、環境測定の実習も随時加える。
体 育 原 理 (管理も含む)	梅 本	II	体育の実践的活動の基本的な原理と、体育的活動に必要な諸条件整備のための営みとしての体育の経営・管理について概説する。テキスト：前川「体育原理」、宇土ほか「体育管理入門」
体 育 心 理 学 I	加 賀	I～IV 前	体育心理学の歴史と諸分野を概観し、運動技能の獲得と、それに関与する諸要因について、簡単な実験の供覧や実習をまじえて検討する。松田岩男編「運動心理学入門」（大修館書店）
体 育 心 理 学 II	加 賀	I～IV 後	体育活動とパーソナリティ、運動集団の心理と適応、体育嫌い、スポーツとあがり、などの諸問題について、簡単な実習をまじえて検討する。テキストは体育心理学 I と同じ。
体 育 社 会 学	糸 野	II・III 後	学校や社会における体育とスポーツの社会的諸問題を具体的にとりあげ、その社会学的考え方や科学的研究法などについて論述する。参考書：糸野豊他編「スポーツ人間学」（大修館）
陸上競技系運動学実習	阿 保	I～IV 前	学習者に陸上競技の特性をふれさせる一方法として、運動学及び教育学的原則を特にマネジメント・サイクル（計画・実行・反省）の手法を利用して実習する。
球技系運動学実習 I (バスケット・ボール)	八 木	I～IV 後	バスケットボールの攻防におけるプレイの仕組みと、ルールを理解を深めながら、攻防の基本的技術を身につけ、ゲームを楽しむようにする。



舞踊教育学科・音楽教育学

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
球技系運動学実習Ⅲ (軽スポーツ)	興 水	I～IV 前	軽スポーツの意義と技術の段階的指導法について研究する。(本年度は硬式テニスを中心に)
体操系運動学実習Ⅰ (新体操)	石 崎	I～IV 前	この講座は半年間の科目のために深くすすめることは出来ないが、身体運動を中心として徒手体操、手具体操を基礎から創作へと発展しておこないます。
運動学実習ⅣB (スキー)	片 岡	I～IV (晩)	スキーの文化的意義、技術構造、練習法、用具、装備、ワックスなどについて講義を行い、さらにスキー場において滑走訓練を行う。

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
西洋音楽史概説	芦 川 大 宮	I 前 I 後	D. J. Grout: A History of Western Music, (N. Y, Norton, 3/1980) (一括購入) 第1—12年。参考文献: ヒューズ: ヨーロッパ音楽の歴史 (朝日出版社, 改訂版)
音楽学概説	大 宮	II	Jan La Rue: Guidelines for style analysis (N. Y, Norton, 1970) 一括購入。今年度の実習曲: ハイドン, 序曲。
音楽史特講Ⅰ	大 宮	III・IV	音楽学ゼミナール。対象曲にモーツァルト, 後期交響曲; オルドネス; 交響曲。筆写譜よりスコア作製の実習。様式分析ワークショップ, 西洋音楽関係の卒業論文を予定する者は3年次に履修のこと。
音楽美学特講Ⅱ	芦 川	II～IV	ドイツ語による楽書講読演習。テキスト: Carl Dahlhaus, Analyse und Werturteil (継続講読, 英訳版による参加も可) 講読と並行して, 小レポート作成等によって音楽美学における諸問題を検討する。通年2単位。
音楽理論	佐 野	II	主として古典派, ロマン派のピアノ曲を対象に和声分析を行う。西洋音楽関係の卒業論文を予定する者は2年次に履修すること。(3年以上の末学習者を含む。) 今年度は2単位。
音楽教育概説	徳 丸	II	音楽教育学における行動科学的な面の概観, 教科書: ラドシー/ボイル (徳丸他訳「音楽行動の心理学」(音楽之友社))
民族音楽学特講	徳 丸	III・IV	民族音楽学に関するゼミナール。最近の動向のほか, 次の教科書で議論を行う。大谷他共著「民族音楽学」(白水社)
民族音楽学特講Ⅱ	八 田	II～IV 前	地歌・箏曲の実習を通して, 日本音楽の特性を学ぶ。テキスト, 楽譜はその都度指示する。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
東 洋 音 楽 史	八 田	Ⅱ～Ⅳ 後	地歌・箏曲の実習を通して、日本音楽の特性を学ぶ。テキスト、楽譜はその都度指示する。
ピアノⅠ・講義演習	井 上 遠 藤	I	基礎奏法の研究を主体としたピアノ音楽の研究。(前期・古典派、後期・ロマン派)
ピアノⅡA		Ⅱ 前	ピアノⅠを修得したものを対象とし、より一層の技術的・音楽的向上をめざすとするものである。
ピアノⅡB	遠 藤 若 岡	Ⅱ 後	ピアノⅡAよりの継続研究で、ロマン派の作品を中心に実習する。
ピアノⅢAB		Ⅲ	古典から現代にいたる各様式のピアノ作品を、数多く研究させる。必修課題として、ベートーヴェン後期ピアノ・ソナタから一曲を課す。十分な基礎能力を有するものを対象とする。公開演奏を課す。
ピアノⅣAB	遠 藤	Ⅳ	音楽史上の各様式のピアノ作品を研究、発展させる。卒業演奏をおこなうこと。
器 楽 演 奏 学	佐々木	Ⅱ～Ⅳ	ピアノ・ゼミナール。高度な演奏研究を希望する者を対象に、ロシア・ソビエトのピアノ作品の演奏技法について研究する。ピアノ専攻者は必修。
声 楽Ⅰ・講義演習	林・橘	I	声楽基礎、呼吸法、歌唱法講義。演習(コンコーネ、簡単なイタリア・ドイツ・日本歌曲)
声 楽ⅡA	林	Ⅱ 前	ベルカント唱法、イタリア歌曲の研究。
声 楽ⅡB	林	Ⅱ 後	ドイツ・フランス歌曲の研究。
声 楽ⅢAB	林	Ⅲ	歌曲、アリア、レチタティーヴォの研究。公開演奏を課す。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
声 楽ⅣAB	林	Ⅳ	古典、ロマン派声楽作品の研究、および演奏法の研究。公開演奏を課す。
声楽演奏法研究Ⅱ	長谷川	Ⅲ～Ⅳ	ドイツ・リートの研究及び演奏法をテーマとするゼミナール。
声楽演奏学特講Ⅲ	平 尾	Ⅲ～Ⅳ	演技をとまなうオペラ・アンサンブルのゼミナール。
ソルフェージュ	小 池	I	古典音楽における基本的原理の理解と、それに基づく基礎訓練。
合 唱Ⅰ～Ⅳ	渡 辺	Ⅰ～Ⅳ	ルネッサンス、バロック、クラシック、ロマン派合唱曲の研究。アンサンブル基礎実習を含む。
合 奏Ⅰ～Ⅳ	高 久	Ⅰ～Ⅳ	ヴァイオリンとヴィオラの奏法及びアンサンブルを実習する。既習者と未習者の2グループで隔週、2時間継続。既習者は、チェロでの受講も可能。(各クラス通年1単位)
和 声 理 論	山 内	I	近代ヨーロッパ音楽の「機能と和声」の理論と実習。及び実際の作品における分析上の諸問題について。テキスト；外崎・島岡著「和声の原理と実習」(音楽之友社)
指 揮 法Ⅰ	中 野	Ⅲ	腕の動き、拍子、速度等指揮の基礎技術を学習。ついで、オペラのアリア、アンサンブルを互いに演奏、指揮することにより、解釈と表現、訳詩、伴奏法などの諸問題を考察、実習する。



文教育学部・共通科目

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
法 学 特 講 (哲学科・法社会学)	広 渡	Ⅱ～Ⅳ	「現代日本社会と法」というテーマのもとに、憲法上の諸問題、家族問題、都市、土地問題などを具体的な手がかりにしながら、現代の法状況を考察する。
社会学特講Ⅰ (哲学科・社会調査)	園 田	Ⅱ～Ⅳ	前半は講義形式により、社会調査の意味や意義、その実際、計画と過程、データ蒐集の技法などについて概括的に説明し、途中からこれらと並行してテーマを選んで実際の調査を実習形式ですすめる。
社会学特講Ⅱ (哲学科・社会哲学 特殊講義Ⅲ)	小 林	Ⅱ～Ⅳ	現代の社会福祉の具体的問題を取りあげ解説すると共に、基本的カテゴリーについて学ぶことを目的とする。
経済学特講Ⅰ (哲学科・経済史)	橋 本	Ⅱ～Ⅳ	日本における資本主義の発達について、欧米との国際比較、国際関係を考慮して説明する。予め修得しておくべき科目はない。受講者が少なければ半ば演習形式を採用する予定。
経済学特講Ⅱ (哲学科・経済理論)	桜 井	Ⅱ～Ⅳ 前	今年度は、現代のかかえる世界経済の諸問題のうちからいくつかを選び、その理論の把握を試みたい。教科書はとくに定めないが、参考書、資料については随時指示する予定。
経済学特講Ⅱ (哲学科・経済理論)	久保田	Ⅱ～Ⅳ 後	価格理論を中心にミクロ経済学の基礎を取り扱う。さらに、多期間消費者行動、情報の経済学、資本市場理論についても検討をする。教科書：ハーシュライフ「価格理論」(上)
政治学特講 (哲学科・政治理論)	藤 井	Ⅱ～Ⅳ	近・現代の東アジアの国際政治を、日中関係に中心を置いて考察する。

文教育学部・特選科目・人文

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
文化人類学特殊講義	田 中	Ⅱ～Ⅳ	親族制度(広い意味の)と社会構造、社会組織の関係を検討する。構造的ヴァリエーション、機能、そして何故親族の絆はどの社会においても基本的な関係なのか等の問題を考える。
文化人類学講義演習			本年度開講せず。
ギリシア語初級	柴 田	Ⅰ～Ⅳ	田中・松平著『ギリシア語入門』(岩波全書)により初級文法を学ぶ。訳読・作文などの演習を主体としたクラスである。
ラテン語上級	柴 田	Ⅱ～Ⅳ	アウグスチヌスの著作を講読する。思想の理解と文法を中心にするが、ラテン語修辞学初歩をもふくむ。
言語学概論	宮 岡	Ⅲ・Ⅳ	言語研究の歴史をたどりつつ、言語の形式的・心理的・社会的特性を考え、あわせて言語構造の把握と記述、言語比較の原理と方法について基礎的な解説をおこなう。
独文学演習	杉 本	Ⅲ・Ⅳ	Gottfried Keller: Kleider machen Leute の講読。テキストは研究室で用意する。
仏文学演習	中 川	Ⅲ・Ⅳ	デュドロの小説「これはコントではない」(前期)、「修道女」(後期)を読む。テキストは研究室で用意する。
仏文学演習	石 川	Ⅲ・Ⅳ	前期にスタンダール「赤と黒」、後期にフローベール「感情教育」を読みながら、この二小説の世界を比較考察する。テキスト Le Rouge et le Noir は仏文研究室で販売。
特別外国語 (イタリア語)	河 島	Ⅰ～Ⅳ	イタリア語の初歩。教科書は最初の授業で指示。



## 人文科学研究科・哲学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
哲 学 特 論 I	熊 谷	I・II	カントを手がかりとして哲学の諸問題を考える。
哲 学 特 論 II	土 屋	I・II	心の哲学をめぐる諸問題について解説する。
哲 学 演 習 I	熊 谷	I・II	現象学的還元について。
哲 学 演 習 II	土 屋	I・II	アリストテレスの心の哲学を研究する。 テキスト：D. W. Hamlyn, Aristotle's De Anima Books II & III, Oxford,ギリシア語のテキストも使用可。特に第3巻を中心に読む。
倫 理 学 特 論 I	高 島	I・II	日本近世倫理思想史の諸問題。儒教の日本的な受容について考える。テキスト：「中江藤樹」(岩波日本思想大系)
倫 理 学 特 論 II		I・II	家政学部家庭経営学科小倉志祥教授「家政学原論特論II」を以て代替しうる。
倫 理 学 演 習 I	高 島	I・II	日本中世倫理思想史の諸問題。武士の生死観を考える。
倫 理 学 演 習 II	尾 田	I・II	徳論の研究。O. F. Bollnow: Wesen und Wandel der Tugenden ほか。
美 学 特 論 I	坂 本	I・II	西欧近世美術と非西欧地域美術との間に見られる交流関係と各地域における対応状況の研究。
美 学 演 習 I	坂 本	I・II	学生との討議によって一年間の研究題目を決めて、各学生の専攻部門を基盤として共同研究に参加する。
社会哲学特論 I	宮 島	I・II 前	現代社会論の一環として、文化・教育と社会構造との関連を考える。P・ブルデュー、B・バーンステインの仕事を読んでいきたい。

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
社会哲学演習Ⅰ	宮 島	Ⅰ・Ⅱ	近現代の社会理論の再検討。R・アロン『社会学的思考の流れ』（法政大学出版局）を読み、後半では、各自が論文やテーマを決めて報告する。
社会哲学演習Ⅱ	宮 島	Ⅲ・Ⅳ	社会哲学の発展と批判。社会哲学の歴史と現状を考察し、社会哲学の将来について議論する。
社会哲学特論Ⅰ	式 部	Ⅰ・Ⅱ	社会哲学の基礎理論。社会哲学の基本概念と理論的枠組みを解説し、社会哲学の発展と批判について議論する。
社会哲学特論Ⅱ	式 部	Ⅲ・Ⅳ	社会哲学の応用。社会哲学の理論を現実社会の問題に応用し、社会政策の提議について議論する。
社会哲学演習Ⅲ	式 部	Ⅰ・Ⅱ	社会哲学の発展と批判。社会哲学の歴史と現状を考察し、社会哲学の将来について議論する。
社会哲学演習Ⅳ	式 部	Ⅲ・Ⅳ	社会哲学の発展と批判。社会哲学の歴史と現状を考察し、社会哲学の将来について議論する。
社会哲学特論Ⅲ	式 部	Ⅰ・Ⅱ	社会哲学の基礎理論。社会哲学の基本概念と理論的枠組みを解説し、社会哲学の発展と批判について議論する。
社会哲学特論Ⅳ	式 部	Ⅲ・Ⅳ	社会哲学の応用。社会哲学の理論を現実社会の問題に応用し、社会政策の提議について議論する。
社会哲学演習Ⅴ	式 部	Ⅰ・Ⅱ	社会哲学の発展と批判。社会哲学の歴史と現状を考察し、社会哲学の将来について議論する。
社会哲学演習Ⅵ	式 部	Ⅲ・Ⅳ	社会哲学の発展と批判。社会哲学の歴史と現状を考察し、社会哲学の将来について議論する。
社会哲学特論Ⅴ	式 部	Ⅰ・Ⅱ	社会哲学の基礎理論。社会哲学の基本概念と理論的枠組みを解説し、社会哲学の発展と批判について議論する。
社会哲学特論Ⅵ	式 部	Ⅲ・Ⅳ	社会哲学の応用。社会哲学の理論を現実社会の問題に応用し、社会政策の提議について議論する。
社会哲学演習Ⅶ	式 部	Ⅰ・Ⅱ	社会哲学の発展と批判。社会哲学の歴史と現状を考察し、社会哲学の将来について議論する。
社会哲学演習Ⅷ	式 部	Ⅲ・Ⅳ	社会哲学の発展と批判。社会哲学の歴史と現状を考察し、社会哲学の将来について議論する。
社会哲学特論Ⅶ	式 部	Ⅰ・Ⅱ	社会哲学の基礎理論。社会哲学の基本概念と理論的枠組みを解説し、社会哲学の発展と批判について議論する。
社会哲学特論Ⅷ	式 部	Ⅲ・Ⅳ	社会哲学の応用。社会哲学の理論を現実社会の問題に応用し、社会政策の提議について議論する。
社会哲学演習Ⅸ	式 部	Ⅰ・Ⅱ	社会哲学の発展と批判。社会哲学の歴史と現状を考察し、社会哲学の将来について議論する。
社会哲学演習Ⅹ	式 部	Ⅲ・Ⅳ	社会哲学の発展と批判。社会哲学の歴史と現状を考察し、社会哲学の将来について議論する。
社会哲学特論Ⅸ	式 部	Ⅰ・Ⅱ	社会哲学の基礎理論。社会哲学の基本概念と理論的枠組みを解説し、社会哲学の発展と批判について議論する。
社会哲学特論Ⅹ	式 部	Ⅲ・Ⅳ	社会哲学の応用。社会哲学の理論を現実社会の問題に応用し、社会政策の提議について議論する。



人文科学研究科・史学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
日本史学特論Ⅰ	小 風	I・II	近代日本政治経済史の諸問題。
日本史学特論Ⅱ	五 味	I・II 前	『平安遺文』・『鎌倉遺文』の講読。
日本史学演習Ⅰ	青 木	I・II	「令集解」の輪読。
日本史学演習Ⅱ	大 口	I・II	幕藩体制史の諸問題。
東洋史学特論Ⅰ	岸 本	I・II	アジア社会に関する研究書で方法的に興味深いものを選び、輪読する予定。
東洋史学演習Ⅰ	佐 伯	I・II	各人の専攻に関連する報告を求め、討論を通じて論文作成の基礎学習を行う。
西洋史学特論Ⅰ	平 野	I・II	出席者の関心に合わせ、アメリカ史の研究論文を読む。
西洋史学演習Ⅰ	山 本	I・II	近現代ヨーロッパ史の諸問題についての報告と討論を中心とする。

人文科学研究科・地理学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
人文地理学特論Ⅰ	井 内	I・II 前	人文地理学の方法を中心に、内外の文献研究を行う。
人文地理学特論Ⅲ	正 井	I・II 前	世界の諸都市の形態・景観とその自然・文化的背景に関する講義。東京の研究を含める。
人文地理学特論Ⅳ	未 定	I・II 後	
人文地理学演習Ⅰ	井 内	I・II 後	学生の専攻主題の共同研究。
野 外 調 査 Ⅰ	井 内	I・II	近郊農村地帯で都市化の実態調査を行う。
自然地理学特論Ⅰ	浅 海	I・II 前	土壌と地形の対応に関する論説と事例について。
自然地理学特論Ⅲ	三 上	I・II 前	気候変動に関する文献（英文）の講読。
自然地理学特論Ⅳ	未 定	I・II 後	
自然地理学演習Ⅰ	浅 海	I・II 後	自然地理学全般にわたる文献、研究報文の紹介批判。
自然地理学演習Ⅱ	三 上	I・II 後	修論に即した自然地理学研究の方法に関して、文献紹介・現地調査報告を行う。
野 外 調 査 Ⅱ	浅 海 三 上	I・II	自然地理学の分野における野外調査の方法の検討と実習。
地誌学特論Ⅰ	式	I・II 前	最近の地誌学関係の調査研究事例を紹介し、環境論・景観論、地域論の各分野からのアプローチを解説する。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
地 誌 学 特 論 III	内 藤	I・II 前	産業構造の転換に伴う地域の変化を労働市場の変化を媒介にして考察する。具体例をとり上げて行う。
地 誌 学 特 論 IV	未 定	I・II 後	
地 誌 学 演 習 I	式	I・II 後	地誌に関する調査、研究の手順と方法について内外文献の紹介、講読などを行う。
地 誌 学 演 習 II	内 藤	I・II 後	経済地誌の方法と内容に関する検討。
野 外 調 査 III	式 内 藤	I・II	自然地誌、人文地誌の編成に関する、資料の収集、分析、構成の方法などを実際に即して行う。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
中 古 文 学 特 論	平 野	I・II	物語や日記など平安文学作品における和歌の機能を考察する。
中 古 文 学 演 習	犬 養	I・II	王朝和歌史上の諸問題を考えてゆきたい。時に原典の講読も行う。
中 世 文 学 特 論	三 木	I・II	中世文学を特徴付ける素材のいくつかについて考察を加える。
近 世 文 学 特 論	小 池	I・II	戯作の手法と意図、作者と読者の問題、それらの近代へのかかわりなどについて、草双紙の初期から中期への作品を中心にしながら考えてみたい。テキストは板本のコピーを用意する。
近 代 文 学 演 習	浅 井	I・II	近代文学における作品研究の方法と課題について考える。
国 語 学 特 論	白 藤	I・II	文字の研究。日本語における文字論の特殊性を考え、その方法論や具体的分析について考察を試みる。
国 語 学 演 習	市 川	I・II	類義語の考察 Sartorius (Vintage) を中心に、フォーブナーの歴史意識とロクナベーターの成立について考える。テキストは研究室で購入。 D. Kübler (1984) Descriptive Syntax and the English Verb を使用し、生成文法理論における英語の統語構造分析を検討する。



人文科学研究科・中国文学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
中国文学特論Ⅱ	近 藤	I・II	「古文研究」 明の唐順之の『文編』から、清の沈徳潜の『唐宋八家文読本』に至る古文編次の迹を、作品を中心に、検討する。
中国文学特論Ⅲ	丸 山	I・II	「中国現代文学研究」 昨年の聞一多に続いて朱自清を取り上げる。主な作品（評論・論文を含む）を選んで読むと同時に、朱自清についての研究・論文も随時とり上げて行きたい。テキストは『朱自清』（三聯現代作家選集）
中国文学演習Ⅰ	佐 藤	I・II	「唐詩研究」 前年度にひきつづき、唐代の詩人および詩作品についての講読を行う。具体的には授業時に指示する。
中国語学特論Ⅰ	頼	I・II	「日本漢文学研究」 江戸後期の儒者の作品を読み、その学問・教養の基本を考察する。テキストは『儒林叢書』から適宜に選択し、複写配布する予定。
中国語学演習	中 山	I・II	「老舍作品研究」 『老牛破車』を講読し、併せて読解力の強化をも目指す。

人文科学研究科・英文学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
英文学演習Ⅰ	外 山	I・II	Chaucer: <i>The Canterbury Tales</i> の演習。
英文学演習Ⅱ	野 島	I・II	John Webster, <i>The Duchess of Malfi</i> テキストは研究室に用意してあるから、助手から購入すること。
英文学特論Ⅰ	富 山	I・II	構造主義以降の思想と文学批評の問題をとりあげる。テキストは主に批評関係の論文。
英文学特論Ⅱ	工 藤	I・II	過激で反俗的なユーモアと饒舌な文体によって後代に大きな影響を与えた18世紀の文人 Lawrence Sterne の文学的特質について考察する。テキスト Lawrence Sterne: <i>The Life and Opinions of Tristram Shandy</i>
米文学演習Ⅰ	酒 本	I・II	Edgar Poe の代表的な短編を読み、アメリカ・ルネッサンスの文学風土の中での意味を考える。テキストは研究室にある。
米文学特論Ⅰ	海老根	I・II	William Faulkner 研究 Sartoris (Vintage) を中心に、フォークナーの歴史意識とヨクナパトーファの成立について考える。テキストは研究室で購入。
英語学特論Ⅰ	今 西	I・II	D. Kilby (1984) <i>Descriptive Syntax and the English Verb</i> を使用し、生成文法理論における英語の統語構造分析を検討する。
		I・II	認知発達と社会性発達との関連性について、P. C. Serfaty (ed.) <i>Social Cognitive Development in Context</i> 及び P. C. Reynolds <i>On the Evolution of Human Behavior</i> をテキストとして学ぶ。



専攻学英文・特許種学種文

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
英 文 指 導	宮 川 ルイス	I	毎週、課題を出して英作文を書かせる。 英文タイプで打つこと。発表者(各週1 名)はコンピューターのワープロソフト に入力すること。
		II	
		III	
		IV	
		V	
		VI	
		VII	
		VIII	
		IX	
		X	
		XI	
		XII	

人文科学研究科・教育学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教 育 学 特 論	上 野	I・II	シンボル形成と教育。
教 育 史 特 論	未 定	I・II	
		III	
		IV	
		V	
		VI	
		VII	
		VIII	
		IX	
		X	
		XI	
		XII	
教 育 方 法 学 特 論	宮 原	I・II	外国語の教育方法について異文化間コ ミュニケーションという視点から検討す る。
教 育 方 法 学 演 習	今 野	I・II	アメリカにおけるカリキュラム論の系譜 について学ぶ。本年度は、Eisner, E. W-Cognition and Curriculam を読む。 (但し、受講者の問題関心に焦点づける ために、変更があり得る。)
教 育 社 会 学 特 論	河 野	I・II	教育改革についての社会学的研究。
教 育 行 政 演 習	高 倉	I・II 前	当面する教育行政財上の問題から重要な ものを選び、比較教育史的に考察する。
教 育 行 政 演 習	森	I・II 後	三大教育裁判を中心とした判例にみる教 育論の比較研究。
社 会 教 育 学 演 習	小 川	I・II	社会教育における公教育性の問題を、イ ギリス成人教育の文献の検討を通して究 明する。
博 物 館 学 演 習	鷹 野	I・II	野外博物館の活動・効用・特性をみてい く。
発 達 心 理 学 特 論	藤 永	I・II	認知発達と社会的発達との関連性につい て、F.C.Serafica (ed.) Social Cogni- tive Development in Context 及び P. C.Reynolds On the Evolution of Hu- man Behavior をテキストとして学ぶ。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
発達心理学演習	春日	I・II	人格と情動の発達、行動病理のメカニズム、精神病理、等の諸問題について文献の講読と討議を中心に考える。
教育心理学特論	吉田	I・II	現象学的心理学の基礎をまず学習する。ついで、教育とかかわる事象の現象学的心理学の立場からの諸研究をとりあげ、検討していくことにしたい。
教育心理学演習	須賀	I・II	種特性と個体特性の諸問題をめぐる文献講読、等。
視聴覚教育特論	内田	I・II	Kuczai, S. A. (Ed.), Discourse Development (Springer-Verlag) を講読し、討論することにより文章理解・産出に関する認知心理学的諸問題を探り、今後の研究動向を展望する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
舞踊教育学特論	未定	I・II	
舞踊方法論実験実習	未定	I・II	
舞踊教育学演習	片岡	I・II	舞踊教育学に関する内外の論文を講読し舞踊教育学の諸問題を討議する。
舞踊美学特論	三隅 前	I・II	日本ならびに周辺アジア諸国の民俗芸能を素材にしながら、わが国における舞踊の歴史的経過とその特色を考察する。
遊戯学特論	加賀	I・II	Joseph Lery: Play Behavior, John Wiley & Sons, 1978をテキストとして遊戯行動に関する諸問題を考察する。
遊戯学実験実習	石黒 前	I・II	舞踊技法をリズム、間、型の視点から分析し美的特質についてふれる。
遊戯学実験演習	加賀 後	I・II	遊戯・スポーツの楽しさについての実験・調査を行う。
遊戯学実験実習	興水 後	I・II	遊戯・スポーツ等に関する諸問題についての実験・実習を行う。
遊戯方法論実習	松田 前	I・II	レジャー概念、タイム・パジェット、レジャー活動、レジャー環境、文化とレジャー、レジャーとパフォーマンスについての概説と討議参考書：松田著「現代余暇の社会学」誠文堂新光社
動作学実験実習	森下	I・II	幼少期の動作発達について、小課題をきめ、観察、分析をすすめる。



文学部音楽学・音楽学専攻

科 目 内 容	教 官	学 年	講 義 内 容
音楽美学特論	大 宮	I・II	Charles Rosen, Sonata Forms (N. Y., Norton, 1980) 一括購入。講読2年目。1年全員。2年は前期のみ履修のこと。
音楽理論演習	大 宮 徳 丸	I・II	文献探策の特論、音や映像の利用等、論文作製に必要な技術の訓練。1, 2年全員の共同ゼミナール。
民族音楽学実験実習	徳 丸	I・II	音楽記号学の最近の研究を消化する。
舞踊音楽論実験実習	近 藤	I・II	20世紀音楽の音と楽譜による理解。教科書 ヒューズ著(ベニテズ, 近藤共訳)「ヨーロッパ音楽の歴史」(朝日出版社)(1年次必修)
演奏学実験実習	遠 藤	I・II	ピアノ音楽における様式の比較研究, および演奏学実習。
演奏学特論	林	I・II	19世紀の声楽作品の研究と演奏学実習。
舞踊音楽論実験実習 II	三 林	I・II	歌曲における演奏の変遷を実際の歌唱体験と過去の大歌手たちのレコードを聴くこと, または記譜の検討等により声楽を研究する。

人文科学研究科・関連科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
独 文 学 特 論	杉 本	I・II	Gottfried Keller: Kleider machen Leute 其の他の短編を講読・解釈し, 彼の作品にあらわれているドイツリアリズム文学一般の様式の特徴についても考察す。テキストは研究室で用意する。
仏 文 学 特 論	中 川	I・II	ディドロの小説「これはコントではない」(前期)「修道女」(後期)を読む。テキストは研究室で用意する。
仏 文 学 特 論	石 川	I・II	Stendhal: Le Rouge et le Noir と Flaubert: L'Education sentimentale の部分的講読と概括的比較考察。テキストは仏文研究室で販売する。







理学部・共通科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初 等 集 合 論	本 田	I 前	集合論の初歩。とくに濃度と順序数の概念の意義を明らかにすることに重点をおく。 教科書：赤根也「集合論入門」(培風館)
初 等 解 析 学 I	関 本	I 後	一般位相初歩。多変数の微分 教科書：岩堀長慶編「微分積分学」(裳華房)
初 等 解 析 学 II	高 村	II 前	初等解析学Iの続き。重積分・線積分等。 教科書：笠原皓司「微分積分学」(サイエンス社)
初 等 線 形 代 数 学	高 村	I 後	数学(理)IIの続き。
初 等 代 数 学	伊 関	I 後	三角関数、複素数、多項式、その他。数学科学生は一年次、他は任意学年。
初 等 波 動・熱 学	橋 爪	I・II 前	波動論、幾何光学、物理光学の基礎、熱力学概説
初 等 電 磁 気 学	石 黒	I～IV 後	電磁気学の初等的解説を行う。教科書は未定であるが、59年度とは異なるものを用いる予定。
基 礎 量 子 化 学	細 矢	I 前	化学の基礎としての波動力学的な考え方の入門。それを用いて原子、分子の構造や性質をどのように理解するかを講義する。
基 礎 化 学 熱 力 学	大 橋	I 後	熱力学の基礎とその化学への応用の入門的講義
微 視 生 物 学	能 村	II 前	生物学の基礎としての分子生物学入門。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
巨 視 生 物 学	馬 場	I 後	動物の環境への適応。 参考書：シュミット＝ニールセン著（柳田為正訳）「動物の生理学」（岩波・現代生物学入門）。内田清一郎・菅原浩著「適応の生物学」（講談社）。
天 文 学	藤 田	II 前	天文学の基礎，特に太陽系および恒星について。
地 球 物 理 学	高 野	III 後	歴史地震から地震予知に至る，地震学全般を平易に話す。震度，マグニチュード前震，余震，地震のメカニズム，人工地震等。
気 象 学	竹 内 (清)	I～IV 後	
超 高 層 物 理 学	国 分	III 前	オゾン層，電離層，オーロラの物理，磁気圏における荷電粒子の振舞，惑星間空間を吹きぬける太陽風など，人工衛星の発達により明らかになった地球周辺の物理像を概説する。
電 子 計 算 機	有 山	III 前	電子計算機のハードウェア，ソフトウェアについて概説する。
物理学基礎実験	池 田 窪 田	I 後 〔生〕	基礎的な物理実験の実習。 教科書：水野・三木著「基礎物理学実験」（培風館）
化学基礎実験	前 田	I (物) 〔生〕	基礎的な化学実験の実習。
生物学基礎実験	山 下 西 川	I 前 (物理) (集中)	臨海実験所において植物，動物の基礎的な野外採集，顕微鏡観察などを行う。 (7月)

[illegible]



数 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
線 形 代 数	林 田	I	線形空間, 行列, 行列式, 固有値など。 教科書: 岩堀長慶編「線形代数学」(裳華房)
線 形 代 数 演 習	林 田 榎 本	I	同上の演習。
微 積 分 学 I	松 田	I	一変数の微積分学の基本事項 教科書: 伊藤雄二「微積分学」(朝倉書店)
微 積 分 学 I 演 習	松 田 前 田	I	同上の演習
微 積 分 学 II	沢 島	II	多変数の微積分学とその応用。 教科書: 野本久夫・岸正倫「解析入門」(サイエンス社)
微 積 分 学 II 演 習	沢 島 竹 尾	II	微積分学IIの演習
代 数 学 序 論	小 山	II	群論の初歩(置換群, 同型定理, シローの定理等)
代 数 学 序 論 演 習	小 山	II	同上の演習(講義と演習を隔週で行う)
幾 何 学 序 論	立 花	II	ユークリッド空間のベクトル場と微分形式(ポアンカレの補題, ストークスの定理など)
幾 何 学 序 論 演 習	立 花	II	同上の演習(講義と演習を隔週通年)
位 相 空 間 論	渡 辺	II	位相空間論入門(位相, コンパクト, 連結, 距離空間など)。 教科書: 亀谷俊司「集合と位相」(朝倉書店)。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
位 相 空 間 論 演 習	渡 辺 前 田	II	位相空間論の演習
関 数 論 I	渡 辺 前 田	III	Cauchy の定理を中心とした関数論の基本的事項について述べる。 教科書: 一松信「関数論入門」(培風館)。
数 学 の 講 究	沢 島 伊 関 小 山 渡 辺 林 田 藤 原 立 花 小 川 松 田 竹 内 高 村	IV	各研究室に分かれて, それぞれ特定の題目について(原則として)外国語文献の講読を行い, 知識を深めるとともに数学における研究の方法を修得する。
微 分 方 程 式 論 I	松 田	III	常微分方程式に関する基本事項
代 数 学 I	藤 原	III	環と体の理論 教科書: 石田信「代数学入門」実教出版
幾 何 学 I	小 川	III	微分形式を主に用いた曲線と曲面の微分幾何学。
積 分 論 I	伊 関	III	一変数のルベーグ積分の基本事項。ただし, 積分論Iはその前半, 積分論IIは後半である。
関 数 解 析	宮 島	III	関数解析の抽象的理論を初歩から解説する。Banach 空間及びその上の作用素に関する基礎事項などを扱う。 参考書: 高村多賀子「関数解析入門」(朝倉書店)
関 数 論 I 演 習	渡 辺 榎 本	III	関数論Iの演習



※印科目の履修は、講義内容欄の○を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
関 数 論 II	大津賀	III 後	前期にひきつづき、一松氏の教科書に基づいて進む。
積 分 論 II	伊 関	III 後	積分論 I の続きである。
微分方程式論 II	松 田	III 後	微分方程式論 I の続き。
代 数 学 II	藤 原	III 後	ガロアの理論と代数的整数論の初歩
幾 何 学 II	中 村 (得)	III・IV 後	ホモロジー理論を中心とした位相幾何学の初歩的事項の解説をする。 教科書は特に指定しない。
確 率 論	竹 内 (順)	III 前	確率過程のやさしい入門。 random walk の potential 論
※ 数 理 統 計 学	鍋 谷	III・IV 前	確率、分布、推定、検定などを中心に、数理統計学の主要な問題について講義する ○統計学 I 教科書：工藤・上村共著「統計数学」(共立出版)
応 用 解 析 学	竹 内 (順)	III 後	Lebesgue 測度論によって、確率論を基礎づける問題について
解析学統論 I	宮 島	III 後	Hilbert 空間上の作用素論入門。有界自己共役作用素のスペクトル分解などについて述べる予定。 参考書：竹之内脩「関数解析」(朝倉)、伊藤清三「関数解析Ⅲ」(岩波基礎数学)
代数学統論 I	小 山	III・IV 後	カテゴリー論入門
幾何学統論 I	小 川	III・IV 後	幾何学 I の続き。多様体入門。
数 学 演 習 II	伊 関	III 後	積分論 I および II の演習。

文庫学芸・探究学芸

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
数 学 演 習 IV	藤 原	III・IV 前	代数学 I の演習
数 学 演 習 II	角 井	II 後	同上の続き。
代 数 学 II	伊 藤	I 前	ガロアの理論と代数的整数論の初歩
幾 何 学 II	中 村 (得)	III・IV 後	ホモロジー理論を中心とした位相幾何学の初歩的事項の解説をする。 教科書は特に指定しない。
確 率 論	竹 内 (順)	III 前	確率過程のやさしい入門。 random walk の potential 論
※ 数 理 統 計 学	鍋 谷	III・IV 前	確率、分布、推定、検定などを中心に、数理統計学の主要な問題について講義する ○統計学 I 教科書：工藤・上村共著「統計数学」(共立出版)
応 用 解 析 学	竹 内 (順)	III 後	Lebesgue 測度論によって、確率論を基礎づける問題について
解析学統論 I	宮 島	III 後	Hilbert 空間上の作用素論入門。有界自己共役作用素のスペクトル分解などについて述べる予定。 参考書：竹之内脩「関数解析」(朝倉)、伊藤清三「関数解析Ⅲ」(岩波基礎数学)
代数学統論 I	小 山	III・IV 後	カテゴリー論入門
幾何学統論 I	小 川	III・IV 後	幾何学 I の続き。多様体入門。
数 学 演 習 II	伊 関	III 後	積分論 I および II の演習。



理学研究科・数学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
解析学特論 I	高村 前 田 竹	I・II 前	現代関数解析。VI
解析学特論 II	高村 後	I・II 後	量子力学に関連した関数解析
解析学特論 III	未 定		
代数学特論 I	藤 原	I・II 後	解析数論。特に Circle Method の新しい展開について述べる。
代数学特論 II	未 定		
幾何学特論 I	立 花	I・II 前	リーマン幾何学、とくに submersion の理論。
幾何学特論 II	高 木	I・II 前	
応用数学特論 I	高 村	I・II 前	発展方程式とその応用。
数 学 特 論 I			
数 学 講 究	沢 島 伊 関 小 山 渡 辺 林 田 藤 原 立 花 小 川 松 田 竹 内 高 村	I・II	

物 理 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
物理数学 I	亀 井	II 前	関数論の概要、Fourier 級数 Laplace の変換、常微分方程式の解法。特殊関数。
物理数学 II	亀 井	II 後	同上の続き。
力学 I	伊 藤 (敬)	I 前	質点の力学 教科書：原島鮮「力学」(裳華房)
力学 II	伊 藤 (敬)	I 後	質点系・剛体の力学 教科書：原島鮮「力学」(裳華房)
力学 III	福 田 (博)	II 前	解析力学、(ラグランジュ、ハミルトン理論)を中心に量子力学等近代物理の理解の基礎となる物理学での広い立場での考え方を学ぶ。 参考書：原島鮮「力学」(裳華房)
電 磁 気 学 II	池 田	II 前	静磁気、電気と磁気との関係、電磁波の諸性質。
熱力学及び統計力学 I	橋 爪	III 前	熱力学基本法則とその簡単な応用。
熱力学及び統計力学 II	柴 田	III 後	平衡系の統計力学及び非平衡統計力学序論。 教科書：高橋康著「統計力学入門」(講談社)
量 子 力 学 I	柴 田	II 後	シュレディンガー方程式、固有地、一体問題、行列、ブラ・ケット等。 教科書：高田健次郎著「量子力学 I」(朝倉書店)
量 子 力 学 II	柴 田	III 前	摂動論と変分法、スピンと多粒子系、波動場の量子化、光と荷電粒子の量子力学等。 教科書：高田健次郎著「量子力学 II」(朝倉書店)



※印科目の履修は、講義内容欄の○を付した科目を：得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
物理学実験Ⅰ	伊藤(厚) 森本	Ⅱ	基本的な物理量の測定・装置の使用法・測定結果の処理法の習得ならびに実験を通しての物理的思考力の養成。
※ 物理学実験Ⅱ	田中 大島	Ⅲ	物理学実験Ⅰの後を受けて、やや高度な基本的な物理実験を実習する。 ○物理学実験Ⅰ，物理実験学Ⅰ
物理学輪講	石黒	Ⅲ 後	物理学の初歩の修得を前提として、中程度のテキストをえらんで輪講を行う。
特 別 研 究	石黒 橋爪 田中 伊藤(厚) 伊藤(敬) 福田 柴田 池田 富永 亀井	Ⅳ	理論専攻と実験専攻に分れ、各研究室に所属して、それぞれ特定の題目について知識を深めるとともに、物理学における研究のあり方を修得する。
物理数学Ⅲ	品田	Ⅲ 前	線形代数の応用，基準振動，波動方程式
物理数学基礎演習Ⅰ	亀井	Ⅰ 後	
物理数学Ⅰ演習	亀井	Ⅱ 前	物理数学の講義に関した事項の演習
物理数学Ⅱ演習	亀井	Ⅱ 後	同 上
数 値 解 析	有山	Ⅳ 前	数値計算法の基礎を学ぶ。計算機による演習も行う。
電 子 計 算 機	有山	Ⅲ 前	電子計算機のハードウェア，ソフトウェアについて概説する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
プログラミング言語と実習	橋爪 石黒 佐藤	Ⅲ 後	FORTRAN 77 による電子計算機プログラム作成の講義と実習。
連続体物理学	高見	Ⅲ 前	弾性体や流体を連続体とみなして扱う力学の基本的な考え方と，それに関連させてベクトル解析やテンソル代数の意味を物理と数理の両面から学ぶ。
力学Ⅰ演習	伊藤(敬)	Ⅰ 前	力学Ⅰの演習。
力学Ⅱ演習	伊藤(敬)	Ⅰ 後	力学Ⅱの演習
量子力学Ⅲ	品田	Ⅲ 後	光の吸収放出散乱、散乱の量子論入門
電磁気学Ⅱ演習	池田	Ⅱ 前	電磁気学Ⅱの演習。
量子力学Ⅰ演習	柴田	Ⅱ 後	量子力学Ⅰの演習。
量子力学Ⅱ演習	柴田 佐藤	Ⅲ 前	量子力学Ⅱの演習。
流体物理学	高見	Ⅲ 後	「連続体物理学」で学んだことを基礎にして，連続体の中でも特に重要で多彩な流体の力学・物理学について学ぶ。
原子物理学	伊藤(厚)	Ⅲ 前	量子力学の初歩を基礎知識として，主として，原子そのものに関連した物理現象を実験事実との関連において述べ，原子の集団の性質を扱う物性論への橋渡しをする。
素粒子物理学	中村(孔)	Ⅳ 後	“保存則と対称性”という考えを手がかりにして，素粒子物理学の発展の歴史をたどってみる。相互作用の統一理論などの最近の話題にもふれてみたい。







## 理学研究科・物理学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
分 子 特 論 II	伊 藤 (敬)	I・II 前	原子の量子力学。
分 子 特 論 III	石 黒	I・II 後	原子・分子の電子構造についての考察
統計力学特論 I	柴 田	I・II 前	非平衡統計力学。
統計力学特論 II	橋 爪	I・II 後	非平衡統計力学の手法
素 粒 子 特 論 I	福 田 (博)	I・II 後	散乱の一般論を用いて多体系の量子力学を色々の観点より解説。
固 体 特 論 III	伊 藤 (厚)	I・II 後	
固 体 特 論 IV	池 田	I・II 後	
磁性体特論 I	田 中	I・II 前	
固 体 特 論 V	富 永	I・II 前	
物 理 学 特 論 I			
物 理 学 特 論 XV			

科 容 目	教 官	学 年	讲 義 内 容
特 別 研 究	石 黒 橋 爪 田 中 伊 藤 (厚) 伊 藤 (敬) 福 柴 池 田 富 田 永	I・II	前 I 大 阪 錦 東 学 校 未 定 田 部 達 朗 II 前 大 I 学 出 題 書 前 II 西 中 I 学 出 題 書 II 田 部 I 学 出 題 書 ※ 前 II 用 曾 I 学 出 題 無 前 III 復 龍 I 学 出 題 止 前 III 次 路 羊 分 査 點 ※ 前 I 足 首 錦 東 学 出 題 減 前 II 西 中 錦 東 学 出 題 代 外 聖



# 化 学 科

※印科目の履修は、講義内容欄の○を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
基 本 化 学 実 験	細 矢 福 田 鷹 野	I 前	化学の基礎となる実験 教科書：畑・渡辺「基礎有機化学実験」 (丸善)，荒木峻他「分析化学実験指針」 (東京化学同人)。
物 理 化 学 I	大 橋	II	熱力学に基づいた相平衡，相転移，溶液 論の初歩および統計熱力学の入門的講義
分 析 化 学 I	中 西	II 前	分析化学一般の基礎的事項 教科書：デイ・アンダーウッド「定量分析 化学」(培風館)
※ 有 機 化 学 I	塩 田	II	総論(構造，反応の基礎)，各論(炭化 水素，ハロゲン化合物，窒素化合物) ◎化学(理) II 教科書：塩田三千夫著「官能基の化学」 (改訂版)(裳華房)
無 機 化 学 I	曾 根	II 後 III 前	主要な元素・無機化合物の構造・性質と 元素の周期律・原子の構造との関係
生 物 化 学 I	瀬 野	II 後 III 前	生体物質の化学と代謝の前半：糖質，ア ミノ酸およびタンパク質の化学と代謝， 酵素概説 参考書 「スッティ生化学」瀬野・松本 訳(科学技術出版社)
※ 構 造 化 学	細 矢	III 後	物理化学IIの後を受け，化学結合・分子 構造・反応機構・種々のスペクトル等の 理論を主に分子軌道法によって説明する 講義。 ◎基礎量子化学，物理化学II
無 機 化 学 実 験	曾 根 福 田	I 後	簡単な無機化合物の合成と，それらの性 質，反応の観察。
分 析 化 学 実 験	中 西 藤 枝	II 前	主として無機物質を取扱う諸操作と基本 的化学分析法

※印科目の履修は、講義内容欄の○を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
※ 物 理 化 学 実 験	大 橋 堀 野 鷹 野	III 前	物理化学の基礎実験とそれを通しての物 理化学 I, II の講義の演習。 教科書：鮫島実三郎「物理化学実験法」 (掌華房)他にプリント。 ◎物理学基礎実験，物理化学 I, II。
有 機 化 学 実 験	塩 田 永 野 石 毛	II 後	合成の基本操作。定性分析。 教科書：畑・渡辺著「基礎有機化学実 験」(丸善)，「フィーザー有機化学実 験」原書4版 後藤俊夫訳(丸善)
生 物 化 学 実 験	瀬 野 松 本 北 垣	III 後	糖質，タンパク質，核酸および酵素につ いての基礎的実験
化 学 演 習	全教官	IV	外国文献の講読
特 別 研 究	中 西 塩 田 曾 根 瀬 野 細 矢 松 本 前 田 永 野 藤 枝 福 田	IV	各研究室に分属して特定の題目について 研究し，研究方法を総合的に学習する。
基 礎 物 理 学 I	渡 辺	I 前	
基 礎 物 理 学 II	未 定	I 後	
※ 分 析 化 学 II	中 西	II 後	定量分析及び簡単な機器分析 教科書：デイ・アンダーウッド「定量分 析化学」(培風館)◎分析化学 I



※印科目の履修は、講義内容欄の○を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
※ 物 理 化 学 II	細 矢	II 前	一般物理化学のうち、量子化学を基礎とする原子構造と化学総合の講義。 ○基礎量子化学、基礎化学熱力学、初等波動・熱学
物 理 化 学 II	小 林	II 後	分子分光化学や分子集団の電気・磁気物性を学ぶ上で共通の基礎となる考え方や手法について平易に講義する。 教科書：アトキンス「物理化学」(上、下) (東京化学同人)
※ 有 機 化 学 II	永 野	III	酸素、硫黄を含む化合物および複素環式化合物の化学 ○有機化学 I 教科書：モリソン・ボイド「有機化学(中)」第3版 (東京化学同人)
※ 無 機 化 学 II	福 田	III 前	無機化学 I の内容を補足し、さらに多くの実例について述べる。 ○無機化学 I
生 物 化 学 II	松 本	III	生体物質の化学と代謝の後半：脂質、核酸、含窒素化合物の化学と代謝及び代謝調節ならびに免疫化学の概説。 教科書：「スッティ生化学」瀬野、松本訳 (科学技術出版社)
放 射 化 学	石 森	III 前	放射性壊変、核反応など核種に関する基本を概説し、放射性核種と安定同位体を化学の理解に利用する方法を解説する。
機 器 分 析	藤 枝	III 前	化学計測の機器化、自動化の方法と、それに関連する基礎的事項。
錯 塩 化 学	福 田	III 後	配位化合物の化学についての基礎理論といくつかの化合物を例にとりながら、錯体の物性・反応について解説する。
地 球 化 学	佐 藤	I 後	無機地球化学の基本事項の解説。

※印科目の履修は、講義内容欄の○を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
無機化学特別講義	中 原	IV 前	現代無機化学のトピックスを紹介する。
有機化学特別講義	稲 本	III 前	置換、付加、脱離、転位、付加環化など主な有機化学反応の起こる機構についてわかりやすく講義する。 教科書：稲本直樹著「反応論による有機化学」(実教出版)
※ 構造化学特別講義	小 林	III 前	物理化学 II の基礎の上に、分子構造研究上有用な各種分光化学の原理と応用および分子集団の電気・磁気物性について統一的に学ぶ。 教科書：アトキンス「物理化学」(下) (東京化学同人) ○物理化学 II
結 晶 化 学	笹 田	III 前	物質の三次元構造と物性、反応との関連について解説する。
生物物理化学	野 田	III 後	生物個体の体内で起っている現象から生物界全体の進化までの基礎を分子や原子の立場でどこまで理解できるかを考えてみる。 教科書：東京化学同人「生物物理化学」
化学特別講義 I	前 田	III 前	有機光化学反応の基礎、励起状態分子の性質及び反応について解説する。



理学研究科・化学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
有機化学演習Ⅰ	塩田 前田 永野	I	論文の講読と討論。
有機合成化学	未定	I 前	
生物化学特論Ⅰ	瀬野	I 前	複合糖質特にプロテオグリカンの構造と機能に関する諸問題。
生物化学特論Ⅱ	松本	I	生体物質間の特異的相互作用について解説する。
生物化学演習	瀬野 松本	I	外国文献の講読と討論
分析化学特論Ⅰ	中西	I 前	最新の分析化学に関する諸問題の概説。
分析化学特論Ⅱ	藤枝	I 後	最新の分析化学に関する諸問題の概説。
分析化学演習Ⅰ	中西 藤枝	I 前	分析化学に関する文献の講読。
機器分析特論	未定	I 後	
構造化学演習Ⅰ	細矢		論文の輪読と演習
構造化学演習Ⅱ	細矢		
特別研究	曾根 細田 福田 塩永 瀬松 中藤 前大	I・II	

生 物 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
系統学	渡辺	I 前	主として無脊椎動物各群についてその体制、発生、進化などの見地から動物の系統について解説する。 教科書：フィンガーマン，青戸偕爾訳「比較動物学」（培風館）
生理化学	清水	I 前	生理化学の基礎を概説する。 教科書：丸山工作「生化学」（裳華房）
植物形態学	山下	II 前	植物の生殖，発生，生活史，解剖の比較体系。
遺伝学	石和	II 後	遺伝学詳説。 参考書：Alberts et al. 「Molecular biology of the cell」(1983) Garland, New York & London.
細胞生物学Ⅰ	遠山	II 前	細胞小器官の微細構造と機能。 教科書：太田次郎著「細胞の科学」（裳華房）
細胞生物学Ⅱ	太田	III 前	分子生物学を基礎にして，細胞の構造と機能を概説する。
発生学	能村	III 後	動物の発生過程についての概説と，発生学が提起するいくつかの基本的問題についての総説。
動物生理学Ⅰ	馬場	III 前	動物生理学の基礎，特に興奮・感覚についての概説。 参考書：鈴木泰三・田崎京二・中浜博共著。「生理学通論Ⅰ・Ⅱ」（共立全書）
生物学演習	全教官	IV	



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
特 別 研 究	新関 能渡 馬山 塚本 清水 石太 遠山 声原	IV	学生各自個別の主題による研究作業とレポート作製。指導教官の助言のもとに、生物学研究法的一端を体得することを目的とする。
系 統 学 実 習	渡 辺	I 前	代表的ないくつかの動物を材料として、広義の解剖実習。 教科書：八鹿寛二「生物顕微鏡の基礎」(培風館)
植 物 形 態 学 実 習	山 下 西 川	II 前	植物の形態と解剖の基礎的観察。系統分類についても配慮する。 実習資料：学生版牧野日本植物図鑑。
遺 伝 学 実 習	新関 石和 松浦	II 後	遺伝学の基礎的な実験。
細 胞 生 物 学 実 習	太田 遠山 伏	II 後	細胞生物学の基礎実験。
発 生 学 実 習	能村 豊島	III 後	動物発生学の基礎実験。
動 物 生 理 学 実 習	馬場 最上	III 前	ゾウリムシ、カエルなどを用いた動物生理学の基礎実験。
生 理 化 学 実 習 I	塚 本	III 後	酵素反応の基礎実験
生 理 化 学 実 習 II	清 水	III 前	植物を対象とした生体物質の取扱いに関する基礎実験。

※印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
※ 機 器 取 扱 法	芦 原	III 後	種々の機器やアイソトープの取扱いを、植物の代謝に関連する実験を通して修得する。 ◎植物生理学III
臨 海 実 習 I	渡 辺 豊 島	II 前 (集中)	動物系統学臨海実習。海産動物の採集と形態、生態の観察や実験を通して動物の多様な生き方を学ぶ。
臨 海 実 習 II	能村 豊 島	III 後	いくつかの海産無脊椎動物を用いた動物発生学の基礎実験。
臨 海 実 習 III	馬場 最上	III 前 (集中)	各種海産動物を用いた動物生理学の基礎実験。
※ 野 外 実 習	山 下 西 川	II 前 (集中)	海産植物と陸上植物の分類、形態、分布を現地で観察する。 ◎植物形態学実習を同時に履修することが望ましい。 実習資料：学生版牧野日本植物図鑑
植 物 生 理 学 I	清 水	II 後	植物の炭素代謝を中心とした生理学 参考書：清水碩「植物生理学」(裳華房)
植 物 生 理 学 II	塚 本	III 前	主として酵素反応について。
※ 植 物 生 理 学 III	芦 原	III 後	高等植物における物質代謝とその調節およびその生理学的意義について解説する。 ◎植物生理学 I, II
動 物 生 理 学 II	未 定	III 後	
細 胞 遺 伝 学	新関	III 後	真核生物における遺伝物質のありかた、その働きについて考察する。
集 団 遺 伝 学	石 和	III 前	遺伝学にもとづく生物の進化総説。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
生 態 学 I	有 賀	Ⅲ 前	生態系、物質生産（有機物生産）と生物生産、水界とその生物群集、現在量と一次生産、二次生産および高次生産、物質循環などについて講義する。
生 物 学 史	中 村	Ⅲ 後	生物学史におけるトピックをいくつかとりあげて解説する。予定は、解剖学の起源と美術、生体解剖と動物愛護運動、魔女と科学者、科学者集団における競争、日本人の動物観等。教科書はなし。
動物形態学特別講義 I	浅 島	Ⅲ 前	主として脊椎動物の組織や器官の分化、再生、変態、ガンなどの問題を形態学および生化学的に講義する。
動物生理学特別講義 II	高 杉	Ⅲ 前	動物の生理現象を液性調節の観点から理解するために内分泌腺（視床下部・下垂体系、甲状腺、副甲状腺、副腎、膵臓、生殖腺等）のホルモン作用について講義し、併せて神経とホルモンの協調を概説する。
植物生理学特別講義 I	橋 本	Ⅲ 前	高等植物の発育における光、光周期、温度、水（乾燥）などの環境条件と植物ホルモン類を中心とする内部要因の生理学的役割について述べる。
遺伝学特別講義 I	池 内	Ⅲ 前	ヒトの細胞遺伝学。染色体の行動と機能、染色体突然変異、染色体異常疾患、腫瘍と染色体異常、ヒトの遺伝子地図などについて現在の知見を概説する。
遺伝学特別講義 II	広 川	Ⅲ 後	DNAの複製、可動遺伝子の転移、DNAの組み換え、遺伝情報発現の調節等の基本的遺伝機構を分子レベルで講述する。

文庫学博士・研究員等

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
細胞生物学特別講義 I	武 久	Ⅲ 後	真核生物染色体の分子的、細胞学的構築に関する諸問題を扱う。
生物学特別講義 I	未 定		Ⅱ・I 村 瀬 簡 単 学 生 研 究 課 Ⅱ・I 湯 沢 簡 単 学 生 研 究 課 Ⅱ・I 山 本 I 簡 単 学 生 研 究 課 Ⅱ・I 田 太 II 簡 単 学 生 研 究 課 Ⅱ・I 不 山 簡 単 学 生 研 究 課 Ⅱ・I 木 南 I 簡 単 学 生 研 究 課 Ⅱ・I 本 郷 II 簡 単 学 生 研 究 課 Ⅱ・I 関 渡 I 簡 単 学 生 研 究 課 Ⅱ・I 麻 呂 II 簡 単 学 生 研 究 課 Ⅱ・I 泉 武 X 簡 単 学 生 研 究 課



理学研究科・生物学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
動物形態学特論	渡 辺	I・II 後	下等無脊椎動物における細胞分化と形態形成に関する問題を中心とした論文の講読および講義
動物発生学特論	能 村	I・II	
動物生理学特論	馬 場	I・II 後	細胞運動に関する論文の紹介・輪読。
細胞生物学特論 I	遠 山	I・II 前	葉緑体の微細構造と機能に関する最新の論文の講読及び講義
細胞生物学特論 II	太 田	I・II 前	細胞の運動と分化について
植物形態学特論	山 下	I・II 前	
植物生理学特論 I	清 水	I・II 前	
植物生理学特論 II	塚 本	I・II 後	
遺伝学特論 I	新 関	I・II 後	
遺伝学特論 II	石 和	I・II 前	
生物学特論 X	芦 原	I・II 後	植物の代謝調節に関連する論文の講読。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
特 別 研 究	新 関 能 渡 馬 場 遠 山 太 田 山 下 清 水 塚 本 石 和 芦 原	I・II	



理学研究科・生物学専攻

科目内容	講義期間	年	半	官	特	内 容	特
動物形態学特論	渡辺	1・II	II・I	関	海	動物の形態分化と環境との関係を中心とした論文の紹介。	
動物発生学特論	能村	1・II		山	田	動物の発生と分化のメカニズムに関する論文の紹介。	
動物生理学特論	高橋	1・II		木	村	動物の生理機能に関する論文の紹介・解説。	
細胞生物学特論 I	遠山	1・II		木	村	動物の細胞の構造と機能に関する論文の紹介。	
細胞生物学特論 II	太田	1・II		木	村	動物の細胞の運動と分化について。	
植物形態学特論	山下	1・II					
植物生理学特論 I	清水	1・II					
植物生理学特論 II	清水	1・II					
遺伝学特論 I	新岡	1・II					
遺伝学特論 II	石和	1・II					
生物学特論 X	河原	1・II				植物の代謝調節に関する論文の紹介。	

家 政 学 部



児 童 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児 童 学 入 門	全教官	I 前	児童における人間の探究。 全教官が担当し、児童学全般を展望し、各領域に関する紹介と導入を行う。
児 童 学 演 習 I	黒 田	I	(1)文献を媒介に、児童学の諸課題を自主的に探究する。(2)個と集団と課題の相即的發展を模索する。(3)集団行為法、心理劇の基礎を学ぶ。
児 童 発 達 I	飯 長	I 後	児童の発達について、心理学の知見から考察する。
児 童 発 達 II	水 野	II 後	子どもの正常な心身の発達をスライド、映画、ビデオなどを用いて具体的に解説する。
児 童 社 会	本 田 黒 田	I 後	児童の生の現象を、それに関係深い外在的要因、とりわけ、集団、社会、文化などを視座として解明しようとする。初年度は、集団と文化の問題に焦点を当てる。
児 童 社 会	田 口	II 前	子どもと子どもを取巻く人々との関係から生ずる諸問題について、発達段階を追いながら考察する。
児 童 社 会	見 田	(集中)	I 〔人間形成の比較社会学〕——マーガレット、ミードの仕事を中心に。 II 〔人間形成の心理社会学〕——エリック・エリクソンの仕事を中心に。
児 童 学 研 究 法	飯 長	I 後	臨床心理検査法の実習を中心に、パーソナリティの査定法について考える。質問紙法、投影法、作業法、描画法等。
児 童 学 研 究 法	水 野	II 前	子どもの心身の発達、健康維持、障害児の療育などに関する研究法の基本的事項の解説と演習。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児童学 研究法	田 口	Ⅱ 後	言語障害児臨床実務をふまえた臨床的人間理解の理論と方法および動物行動学的児童理解の方法について論ずる。
児童学 研究法	大 塚	Ⅱ 後	具体的な少年保護事件等のケースをとりあげつつ、ソーシャルケースワークについて概説する。
保育学 演習Ⅰ	本 田	Ⅱ	子どもと大人の共生関係を広義の「保育」と捉え、それにかかわる基本的な理論・方法の考察。 資料はその都度指示する。
人 間 学	湯 沢	Ⅰ・Ⅱ	講義の分担と内容は、初回に説明する。
	小 倉		カント以来の哲学的人間学の講義。
	原		異なる文化の中で「育つ」ということ、「育てる」ということは何か、「学ぶ」「教える」「教えられる」ということはどういうことなのかを考える。
	大 塚		講義内容は追って揭示する。
児童学 演習Ⅱ	本 田	(Ⅳ) (Ⅱ) (Ⅲ)	小グループを学生が形成し、自主的にあるいは教官が提出したテーマを選んで研究活動を行う。
児童学 演習Ⅱ	田 口		(上記に同じ)
児童学 演習Ⅱ	水 野		(上記に同じ)
児童学 演習Ⅱ	黒 田		(上記に同じ)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児童学 演習Ⅱ	大 塚		(上記に同じ)
児童学 演習Ⅱ	森 田		年間テーマ「少年保護法制史と日本文化の型」についての基礎文献講読。守屋克彦「少年の非行と教育」(勁草書房), T. Doi, Anatomy of Dependence (Kodansha, International) その他。
児童学 演習Ⅱ	飯 長		臨床心理学, 児童心理学, 発達心理学の文献を, 参加者の研究関心にそって講読し, 理論と研究法について討論する。
人 間 関 係 学	黒 田	Ⅲ 前	(1)文献や実践資料を参考にして, 人間関係の基礎を学ぶ。(2)劇活動・心理劇のさまざまな展開を試み, ドラマの世界の魅力・本質を探るとともに, 人間関係をめぐる諸課題を探究する。
児童臨床学Ⅰ	黒 田	Ⅲ 後	人間関係の視点から児童臨床の理論, 技法, 実践について考究する。三者面談法, 集団精神療法, 状況療法の諸技法他。
児童臨床学Ⅱ	水 野	Ⅲ	子どもの病気, 特に慢性病の子ども(障害児)に関して, 医学の立場から健康管理, 保育, 福祉などの問題を臨床実習を通して総合的に考える。
児童臨床学Ⅲ	田 口	Ⅲ	ことばの発達異常, 発音の異常, どもりその他の「言語障害」をもつ子どもの問題についての, 臨床的な理解のしかたと指導の理論と方法。
臨床心理学	飯 長	Ⅲ	前期は臨床心理学全般にわたって概説する。後期は事例研究を行う。
保 育 学	津 守	Ⅲ 前	(1)子どもの充実した生活を生み出す保育の実践と理論。(2)子どもの行動現象の解釈学的考察。(3)生涯の発達における幼児期の意味



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児 童 文 化 論	本 田	Ⅲ	文化論的視座からの児童への接近。児童に 関係の深い様々な文化事象をテキスト に選び、多角的な視点からの解説を試み る。
青 少 年 問 題	大 塚	Ⅲ	最近における青少年非行の動向や特色を 展望し、その要因をさまざまな面にわた って考察し、併せてその対策におよぶ。
青少年・児童法制論	森 田	Ⅲ 前	少年裁判所は19C 後半のアメリカで、 Child Savers (児童福祉運動家)と呼ば れた一群の人々の手によって誕生した。 この制度の展開過程と日本への継受のプ ロセスを、いわゆる「保護」の観念を軸 にして検討する。
保育学演習Ⅱ	本 田	Ⅱ	子どもと大人の共生関係を広義の「保育」 と捉え、それにかかわる基本的な理論・ 方法の考察。 資料はその都度指示する。
社 会 福 祉 学	中 田	Ⅱ・Ⅲ 後	社会福祉のあゆみ、制度、用いられる方 法などを概説した後、社会福祉の新しい 方向と、それを可能にする市民参加の問 題に触れる。教科書は使用しない。参考 書は授業中に指示する。
児 童 福 祉	川 田	Ⅱ・Ⅲ	(近代児童福祉制度発達史) 親の子に対する監護・教育の職務たる親 権についての考え方の変遷を軸にして、 19—20世紀の英国児童福祉制度の発達を あとづける。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児 童 音 楽	加 勢	Ⅲ	理論と実技両面から、幼児と音楽と指導 法の接点を探究する。鍵盤楽器を活用し て音楽の基礎を速成し、〈音楽あそび〉 を中心にした演習に役立てる。テキスト ピアノの学校Ⅰ (音楽之支社) Kodály Coral Method (Boosey & Hawkes)
児 童 造 形	福 田	Ⅱ	基本的な造形用具を使い、簡単な造形遊 び→表現練習→作品の創作へと導く。
保 育 技 術Ⅰ 保 育 技 術Ⅱ	堀 合	Ⅲ	保育技術Ⅰでは音楽リズムをとりあげ、 保育者として一番基礎となる体のリズム カルな動きを教材を通して研修し、技術 Ⅱでは保育者の考えや心の動きを制作と して表現する力を現場での理論とあわせ 研修する。Ⅰ・Ⅱとも通して履修するこ と。
青 年 心 理	西 平	集 中	青年心理の概論を、生育史的・現象学的 方法にもとづき講義する。内容は、青年 の全生活空間、アイデンティティの形成 と拡散、対人関係、人生観と価値観、現 代日本青年の心理的特質、伝記資料。
臨 床 基 礎 実 習	田 口	Ⅲ・Ⅳ	家庭訪問などを通して、さまざまな子ど もと触れあう機会を設け、臨床的児童理 解の基礎を学ぶ。
臨 床 基 礎 実 習	黒 田	Ⅲ・Ⅳ	児童集団研究会、乳幼児集団研究会にお ける集団指導の実習。個も集団ものびる 状況、リーダーチーム、おもちゃ遊び、 親子のかかわり、子・母との心理劇、絵 本劇場、伝承遊び他の実践研究を行う。
臨 床 基 礎 実 習	吉 川	Ⅲ・Ⅳ	要助児保育の実践を通して、共に育ちあ う集団指導 (治療的保育) の基本的な考 え方、方法等を学び、望ましい統合保育 のあり方、要助児へのかかわり方等を探 っていく。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
臨床基礎実習	武 藤	Ⅲ・Ⅳ	療育相談施設における臨床実習。(1)子どもの発達とその「障害」に関する臨床心理学的理解。(2)「障害」をもつ子どもたちとの臨床活動の理論と技法。(3)「障害」児保育、地域福祉活動の実際など。
臨床基礎実習	森	Ⅲ・Ⅳ	児童臨床研究会における臨床実習。児童臨床教育相談の基礎理論を学び、その実践活動を通して、児童臨床相談者の養成を行う。
臨床基礎実習	中 田	Ⅲ・Ⅳ	療育相談施設における臨床実習 子どもの言語及びコミュニケーションの問題に関する諸体験。 ◎児童臨床学Ⅲ
臨床基礎実習	津 守	Ⅲ・Ⅳ	保育の基礎的実習。愛育養護学校の障害をもった幼・児童について。 週1日、日をきめて、通年で参加することを原則とする。
小児病学	瀬 川	集 中	発達神経科学の立場から、小児期に発症する、神経疾患、精神疾患の病態を解説し、それぞれが①ある特定の年令に発症すること②発症年令に依存した症候を呈すること③或いは経過とともに、年令依存性に症状が変化すること④また、その発症に男女差のあることの必然性を述べる。
身体養護論	坂 口	集 中	子どもの病気やけがについての一般教養的知識の講義。ひいては人間と医療との関わり、また障害児の療育・リハビリテーションに関して問題提起など。参考書「児童における人間の探究」(光生館)

家政学研究科・児童学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児童文化特論	本 田	I	江戸期育児書の講読。
関係学特論	黒 田	I	人間科学における関係学の位置づけ。関係学の理論、技法、実践を、行為法、主として心理劇によって研究する。文献「関係学研究」
言語治療特論	田 口	I	言語の発達・発達異常・障害に関する文献等を資料に、この分野の課題と研究法を論ずる。
青少年問題特論	大 塚	I	青少年問題における青少年処遇の諸法の研究
教育法制特論	森 田	I	少年保護法制史原書講読、さしあたり、Authority (R. Senett) 及び Juvenile Justice Philosophy (F. Faust) を用意している。
発達神経学特論	水 野	I	子どもの行動の発達を発達神経学的観点から概説し、関連文献の講読と討論を行う。
人間関係学特論	黒 田	I	人間関係、児童臨床、心理劇と関連のある文献を講読し、研究の動向を把握するとともに、具体的な実践研究の基盤となる理論、方法論について考究する。
保育学特論	飯 長	I	心理療法に関する文献を講読し、実践的な側面から討論する。
比較発達学特論	浅 見	I	系統発達および進化学的立場からヒトに至る霊長類その他近縁動物の行動面・精神面の進化・発達に関する諸問題を文献的に総覧し、精神発達の根源に論及する。テキスト、Reynold, P. C. [On the Evolution of Human Behavior, The Argument From Animals to Man] 19



食 物 ・ 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
栄 養 学	倉 田	Ⅲ 後	五大栄養素について解説し、さらにそれらの栄養における相互関係、人間栄養に関する諸問題などについて述べる。
栄 養 生 化 学	荒 川	Ⅲ 前	糖質、脂質、蛋白質、核酸等の代謝およびその調節、生化学的意義について講述。
栄 養 生 理 学	森 内	Ⅲ 前	栄養学に必要な人体の構造と機能について解説する。 参考書：朝倉生活科学シリーズ「改訂新版 栄養生理学」（朝倉書店）
食 品 化 学	久保田	Ⅰ 前	食物学の基礎となる有機化学および食品中の主要成分の有機化学的構造、特性についてのべる。
食 品 化 学	小 林	Ⅱ 後	食品の品質にかかわる諸成分につき、それらの生成・存在・機能などに関する問題を、有機化学、天然物化学の立場から講義する。
食 品 学	本 間	Ⅲ 前	主要な農産物について、その成分の食品的特性および加工貯蔵にともなう理化学的变化についてのべる。
食品加工貯蔵学	相 田	Ⅲ 後	食品の貯蔵法に関し、基礎的、原理的事項を中心に述べ、具体的貯蔵法について解説する。若干の個々の食品の加工法についても述べる。
調 理 学 Ⅰ	畑 江	Ⅱ 前	調理過程におこる諸現象を、調理の手法との関連において講義する。 テキスト：松元文子他共著「調理学」（光生館）
調 理 学 Ⅱ	鳥 田	Ⅲ 前	調理過程に起る諸現象を食品の調理性との関連において講義する。テキストは「調理学」（光生館）

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
生 物 化 学	五十嵐	Ⅱ 前	生体の主要構成成分である炭水化物、タンパク質、脂質、核酸の特性、機能、構造などについて解説する。
食 品 分 析 化 学	戸 田	Ⅱ 後	栄養の見地から食品の標準成分を測定する分析方法について、主要な方法を選択して説明する。
食 品 物 性 論	中 浜	Ⅲ 前	食品の力学的性質、熱学的性質、および光学的性質などについて概説する。
食 品 衛 生 学	福 場	Ⅲ 後	食中毒に関する諸問題及び食品添加物問題等、食品衛生全般に関し基本的な事項を解説する。
食 物 学 実 験	全教官	Ⅲ	(1) 各種ビタミンの抽出、化学的定量、動物実験および、主要酵素の分離、測定。 (2) 食品成分の分離、定性、定量を主として化学的手法と、機器分析によって行う。 (3) 食品タンパク質のアミノ酸の分解と定量その他貯蔵、加工に関する実験。 (4) 調理過程に起る諸問題の一部を取り上げ、基礎的実験を行う。テキストは、松元文子、吉松藤子共著。「三訂調理実験」
基 礎 化 学 実 験	倉 田 本 間 久保田 多 胡	Ⅱ 後	定性および定量実験を通じて、基本的な化学実験の手法を学ぶ。
調 理 学 実 習 Ⅰ	畑 江	Ⅰ 後	調理の手法および食品の取り扱い方の要点を基礎的調理の実習を通じて習得する。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
調理学実習Ⅰ	松 本	Ⅱ 前	日本料理、中国料理および欧風料理を実習し、食品の扱い方、献立構成、食卓作法などについての説明を行う。
調理学実習Ⅰ	寺 元	Ⅲ 後	日本料理、中国料理および欧風料理を実習し、食品の扱い方、献立構成、食卓作法などについての説明を行う。
特殊栄養学	森 内	Ⅲ 後	妊娠、授乳時期の母性、乳児、小児、老人の健康と栄養、ストレスと栄養、運動と栄養などについて解説する。 参考書：朝倉栄養学シリーズ「特殊栄養学」（朝倉書店）
食品微生物学	相 田	Ⅲ 前	食品の加工、貯蔵に関する微生物を中心に応用微生物学的事項についても述べる。微生物の種類と性状、一般的生理、微生物遺伝生化学、遺伝子操作など。
食品物理化学	古 賀	Ⅲ 後	食品素材の特性やその保存・調理過程を念頭におきながら、物理化学の初歩的な解説を行う。
調理器具論	平 野	Ⅱ 前	調理器具を構成する各種材料の特性を概説し、機械的調理操作器具および加熱調理操作器具について、構造、性能、使用法を解説する。 テキスト：松元文子他共著「調理学」(光生館)、他その都度配布。
調理学実習Ⅱ	松 本	Ⅱ 後 Ⅲ 前	主として日本料理、中国料理および欧風料理の講義、実習並びに献立構成及び食卓作法。
調理学実習Ⅱ	某	Ⅲ 後	主として日本料理、中国料理および欧風料理の講義、実習並びに献立構成及び食卓作法。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
調理学実習Ⅱ	寺 元	Ⅳ 前	主として日本料理、中国料理および欧風料理の講義、実習並びに献立構成及び食卓作法。
食事計画論	東 畑 浜 島	Ⅲ 前	現在の日本人は、世界一の長寿を保つようになった。栄養改善もその理由の一つとしてあげられる。健康・長寿に加えて、上手に生きていくための食事計画を概説したい。 日常食の献立に関する講義と献立作成の演習。 テキスト：松元文子他著「食事計画論」（建帛社）
食糧政策	宮 崎	Ⅱ 後	わが国の食糧の生産、輸入、流通、消費を通しての問題について論述し、入口との関連、安全保障、食生活のあり方についても触れる。
食物史	石 川	Ⅱ 前	近世より近代、近代より現代といった社会変革期を中心に、食品材料・加工・献立・調理・食事、さらにさまざまな食習慣におよぶ食生活・食文化の構造変革について考察したい。
食物研究法	山 口	Ⅲ 後	人間の感覚を用いて食物の諸特性を測定する方法について概説する。実習も行う。 テキスト：最新の文献を毎回プリントして配布する。
食物学特殊講義	薬 師	Ⅱ 後	化学熱力学の入門的な部分について概説したのち、物質の相変化、化学平衡の問題を化学ポテンシャルの考え方をを使って解く事により、熱力学的な考え方を習得する。
食物学演習	全教官	Ⅳ	外国で発表された近着研究論文の解説と討論。



科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
栄 養 学 輪 講	荒 川 倉 田	IV	栄養学に関する外国書、文献の輪読。
食 品 学 輪 講	小 林 久保田	IV	食品学に関する外国書、文献の輪読。
食 品 貯 蔵 学 輪 講	相 田 本 間	IV	食品貯蔵学に関する外国書 Inside Chemistry (C. Compton 著) その他の総説を輪読する。
調 理 学 輪 講	島 田 畑 江	IV	調理学に関する外国書および文献の輪読。
食 物 学 輪 講	福 場 五十風	IV	食物学に関連する文献、総説の輪読。
応 用 統 計 学	横 山	III 前	1 元配置法、回帰分析、2 元配置法、直交多項式などの応用統計学の基礎を、できるだけ家政学関係の例題で解説する。
応 用 統 計 学 演 習	横 山	III 後	計量値でない様々なデータの解析法を商品テスト、官能検査などを通じて解説する。また、簡単な直交表を使った実験計画についても学び、実際に応用する。

# 食 物 学 専 攻

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
栄 養 化 学 特 論 I	荒 川	I・II 前	栄養化学に関する基礎的諸問題、および代謝調節について解説する。
栄 養 化 学 特 論 II	倉 田	I・II 前	基礎栄養化学の立場から、酵素反応における諸問題（たとえば、活性中心構造と作用機構など）について解説する。
特 殊 栄 養 学 特 論	安部井	I・II 前	病態栄養学を中心として、栄養と疾病とくに成人病と栄養について解説し、議論する。
食 品 化 学 特 論 I	小 林	I 後	食品成分の化学的研究法について。特に化合物の構造解析に用いられる機器分析法について、最近の成果を中心に解説する。
食 品 化 学 特 論 II	久保田	I 後	食品成分の構造解析に用いられる最近の機器分析法についての解説と演習。
食 品 微 生 物 学 特 論	富 永	I	食品微生物学に関する最近の研究を中心にし、微生物の生活へのかかわり方、遺伝子工学の基礎についてもふれる。
食 品 貯 蔵 学 特 論 I	相 田	I	食品の貯蔵、加工に関する最近の進歩について重点的に紹介する。
食 品 貯 蔵 学 特 論 I	本 間	I	食品における水分について、脂肪の酸化蛋白質の分解、褐変への影響をのべる。アミノ酸およびペプチドの分析法についてのべる。
食 品 衛 生 学 特 論	福 場	I	新しい食品添加物毒性判定法等を中心として食品衛生学の新しい研究を説明する。
調 理 学 特 論 I	島 田	I 前	調理過程に起る諸現象のうち特に物性変化と嗜好特性との関連について解説および演習を行う。



専 門 学 科

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
調理学特論Ⅱ	畑 江	I 前	調理過程の諸現象のうち特に加熱に関する変化を中心にして解説および演習を行う。
生物化学特論	五十嵐	I	脂溶性ビタミンの生理作用、ホルモンの作用機序などについて最近の研究を中心に解説する。
環境生化学特論	大 橋	I 後	外部環境に対する生体内受容機構について味覚生理を中心に解説する。
食物学特別講義	蓑 田	I 後	食物における微生物の利用という立場から、食品資源としての微生物菌体、微生物代謝産物、食品加工における微生物酵素、微生物機能について解説する。 ◎微生物学、微生物生化学

被 服 学 科

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
被服材料学Ⅰ	松 川	I 前	被服材料の種類、構成、性質。繊維の構造、製造および性質。被服の着心地、熱や水分の伝達など。 教科書：松川「新版被服材料」（家政教育社）
被服整理・染色化学	駒 城	I 後	染色化学と被服整理学の概要。専門のための予備学習ならびに、教職のための基本的知識の整理を目的とする。
被服構成学Ⅰ	長谷部	I・II 後	人体の形態および衣服の構造について。
被服構成学Ⅱ	石 川	II 後	被服構成における布地の接合、その強さ、縫いつれ、衣服のゆとり、形くずれ、衣服圧など。
服飾美学概論	板 倉 小 池	I 前 I 後	服飾美学の対象と目的、及びその方法。服飾の意味、服飾の形態・色彩・文様の訴えるもの、および流行の諸相についてのべる。
被服材料学Ⅱ	松 川	II 前	繊維各論。高分子と被服材料。被服材料の加工と新素材。プラスチック、ゴム、皮革、人工皮革、毛皮などの概説。 教科書：松川「新版被服材料」（家庭教育社）
被服整理学Ⅰ	駒 城	II 前	繊維製品の洗浄に関する諸問題ならびに漂白、蛍光増白、仕上げ、洗浄作用の基礎理論について述べる。 教科書：矢部・林共著「被服整理学概説」（光生館）
被服材料学実験Ⅰ	松 川	II 前	糸、布の構成。顕微鏡その他による定性。織物の通気、保温、防しわ、剛軟、ドレープ、引張り特性、摩耗など。 教科書：松川「被服材料実験」（家政教育社）



科 目 表

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
染色・整理学実験	駒 城	Ⅱ 後	水の硬度測定（セッケン法）、洗剤溶液の特性、洗たく機の洗浄力試験、漂白と蛍光増白、染料の識別、直接および酸性染料による染色実験。
被服構成学実験実習Ⅰ	古 山 長谷部	Ⅱ 前 Ⅱ 後	衣服地の接合、その強さ、縫いつれ、衣服地の曲面化など被服構成に関する基礎的実験および実習。
被服構成学実験実習Ⅱ	石 川	Ⅲ	体型の観察並びに衣服原型に関する基礎的な実験。
西洋服飾史概説Ⅰ	板 倉	Ⅱ 前	古代より中世に至るヨーロッパ服飾の流れを概観する。
西洋服飾史概説Ⅱ	板 倉	Ⅱ 後	近世より現代に至るヨーロッパ服飾の流れを概観する。
応 用 統 計 学	横 山	Ⅲ 前	1 元配置法、回帰分析、2 元配置法、直交多項式などの応用統計学の基礎を、できるだけ家政学関係の例題で解説する。
応用統計学演習	横 山	Ⅲ 後	計量値でない様々なデータの解析法を商品テスト、官能検査などを通じて解説する。また簡単な直交表を使った実験計画についても学び、実際に応用する。
被 服 機 構 学	松 川	Ⅱ 後	人間―被服―環境系の要因。熱、水分の平衡。被服の各種機能と被服の快適さ。教科書：松川他「被服材料学・機構学・衛生学」（光生館）、参考書：松川他訳「被服機構学」（光生館）
被 服 衛 生 学	吉 田	Ⅱ 前	人間―衣服―環境系の中での衣服の役割を体温調節作用を中心に概説し、衣服と健康との関係や衣服の今後の諸問題について討議する。 参考書：永田久紀「衣服衛生学」（南江堂）

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
繊維物理学	中 村	Ⅲ 前	1 高分子の分子構造、分子量と分子特性、2 高分子物質の構造、3 高分子物質の諸性質 教科書：岡村誠三ら「高分子化学序論」（化学同人）
繊維化学Ⅰ	小 川	Ⅲ 前	高分子化学の基礎（高分子生成反応、速度論、連鎖重合、共重合、重縮合、重付加、高分子の反応、高分子材料、機能性高分子、複合材料）。
繊維化学Ⅱ	小 川	Ⅲ 後	天然繊維、再生繊維、半合成繊維、合成繊維、無機繊維について、生成、構造、物性、反応を個別的に解説する。
被服整理学Ⅱ	中 島	Ⅲ 前	1 洗浄作用に関する界面化学。 2 繊維の「ぬれ」に関連したその他の重要事項。 3 洗浄科学に関するその他の問題。
染 色 化 学	駒 城	Ⅱ 後	染料の部属別分類と各特性、染色物の色、堅牢度、染色の基礎理論について解説する。 教科書：矢部・林共著「染色概説」（光生館）
応用物理化学	小見山	Ⅲ 後	物質の状態、熱力学、溶液、電解質溶液、電気化学、表面、反応速度などの被服科学のための基礎物理化学について述べた後、これらの染色、洗条への応用について解説する。
基礎化学実験	松 浦	Ⅱ	分析化学・物理化学の基礎的な実験（プリントを配布）。
被服材料学実験Ⅱ	小 川	Ⅲ 前	高分子化学基礎実験（ラジカル重合、界面重縮合、高分子反応、分子量測定、ゲル炉過クロマトグラフィー、赤外及び紫外吸収スペクトル、NMR スペクトル）。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
被服材料学実験Ⅲ	小 川	Ⅲ 後	繊維化学基礎実験（繊維の比重、結晶化度、熱的性質、屈折率、クリーブ、熱分析その他）。
被服機構学実験	松 川	Ⅲ 後	布地の吸透湿、吸透水、熱伝導、引張り弾性、圧縮弾性、摩擦帯電など。着衣時の皮膚温、衣服圧、衣服気候、熱絶縁値など。 教科書：松川「被服材料実験」（家政教育社）
染色化学実験Ⅰ	駒 城	Ⅲ 前	モノアゾ染料の合成、精製、混合染料水溶液の分光吸収曲線、染色量の定量、各種染料の染色性および堅牢度。
染色化学実験Ⅱ	菅 沼	Ⅲ 後	染色の基礎理論を理解するために、主として測色・染色平衡・拡散などの実験を行う。テキストはプリントを使用する。
被服整理学実験	斉 藤	Ⅲ 前	1 界面化学基礎実験（表面張力、cmc、起泡力、活性剤の吸脱着） 2 洗浄科学基礎実験（汚染布の作成、人工及び天然汚染布の洗浄、単分子膜レンズ法による油脂の定量など）
被服科学演習Ⅰ・Ⅲ	小 川	Ⅲ・Ⅳ 前	外国雑誌の総説の講読。
被服科学演習Ⅱ・Ⅳ	松 川	Ⅲ・Ⅳ 後	Billmeyer「Textbook of Polymer Science」Fourt, Hollies「Clothing」、外国雑誌報文などからの輪読。
被服科学演習Ⅴ・Ⅶ	駒 城	Ⅲ・Ⅳ 前	K. Durham, "Surface Activity and Detergency" の講読。
被服科学演習Ⅳ・Ⅷ	中 島	Ⅲ・Ⅳ 後	新刊の外国図書と文献の講読および関連する問題の討論。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
被服科学輪講	松 川 中 島 小 駒	Ⅳ	近着外国文献の輪読と討論。
被服構成学実験実習Ⅲ	祖父江	Ⅲ	大裁女物単長着の製作を通して和服の基本構造及び縫製法を理解する。後期はウール地の女物長着を製作し、材質による扱い方の相異、平面構成と立体構成の相異について実習・実験を行う。
被服構成学特講Ⅰ	長谷部	Ⅲ 後	人体の形態と衣服の適合性。
被服構成学特講Ⅱ	保 志	Ⅲ 前	人体の構造と機能について、被服基体という観点から概説する。
被服構成学演習Ⅰ	長谷部	Ⅲ・Ⅳ	被服構成学Ⅰの講義に関連した諸問題
被服構成学演習Ⅱ	石 川	Ⅳ	被服構成に関する基礎と応用についての諸問題の討論。
被服構成計画	田 村	Ⅲ 後	被服の機能性を人体生理学の立場から考察し、快適な被服設計の要因について解説する。
日本服飾史概説	小 池	Ⅱ	古代から近世までの日本の服飾について概観する。従来の諸説の誤りを指摘しつつ新しい視点を示したい。
服飾美学演習Ⅰ	板 倉	Ⅲ	美学史テキストの講読演習。
服飾美学演習Ⅱ	板 倉	Ⅳ	井島 勉：美学（創文社）の講読演習。
服飾美学演習Ⅲ	小 池	Ⅲ	日本服飾史に関する文献、絵画資料の検討。
服飾美学演習Ⅳ	小 池	Ⅳ	近世日本の服飾に関する資料の検討（小説・挿絵・雛形など）



家政学研究科・被服学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
服飾美学特講	小池 板倉	IV 前後	服飾から見た日本近代について。 現代モードの底にあるものについて。
服飾史特講	徳井	III 前	中世フランスの服飾は13世紀を境として大きく変化する。この変化の諸相と共通する中世的特質を、文献資料と図像資料により明らかにする。
	成田	III 後	西洋近世の服飾について講義する予定。 平安朝の服飾を通じて、和様化の現象をとらえ、美意識の問題についても考える。その為に、服飾に関する記録類の検討に加え、特に「源氏物語」の服飾描写をみてゆきたい。
美学特講	荒木	III	中世末期の西欧美術について論じる。とくにタピストリーについて詳しく述べたい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
被服材料学特論	松川	I	布地の性質におよぼす繊維、糸などの性質。各種機能をもつ被服材料の被服としての適用性。関連した文献の講読と説明。
被服物理学特論	高久	I 後	繊維および繊維集合体の変形と破壊、それらに及ぼす環境効果について講義する。
被服衛生学特論	吉田	I・II 前	H. Hensel 著の Thermoreception and Temperature Regulation を輪読して温度感覚および快適感の生理学的基礎について討議する。(プリントを用いる)
被服材料化学特論	小川	I・II	被服材料のキャラクタリゼーション。
染色化学特論	駒城	I・II	染色化学に関する題目を選び、講義および討議を行う。
被服整理学特論	中島	I・II	被服整理学に関する題目を選び、講義および討議を行う。
繊維界面化学	角田	I・II 前	種々な界面物性を化学的立場から、理論、実験方法、結果と理論との関係、応用とのかかわり、などに重点を置き概説する。
被服構成学特論 I (演習)	石川	I・II 前	被服設計に関する基礎的諸問題。
被服構成学特論 I (実験実習)	石川	I・II 後	被服設計に関する基礎的諸問題について、実験的考察を行う。
被服構成学特論 II	長谷部	I・II 後	被服設計に関する諸問題。
被服構成学特論 II (演習)	長谷部	I・II 後	被服設計に関する諸問題。
被服構成学特論 III	酒井	I・II 前	被服構成の分野における設計論と情報処理技術を教授する。



文学部・経済学部

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
被服構成学特論Ⅳ	上 田	I 後	三次元形状の計測技術およびその応用に関して概説する。
服飾学特論Ⅰ	板 倉	I	中世における光の問題研究。
服飾美学特論Ⅰ (演習)	板 倉	I	Georges Duby: Le Temps des Cathédrales の講読演習。
服飾美学特論Ⅱ	小 池	I・II	日本の服飾史の中から数種の事象をとりあげ、そこにみられる美意識について考える。
服飾史特論Ⅰ	利 光	I 前	デザイン論およびデザイン史の観点から、前世紀後半の英国における服飾改良の動向を探る。
服飾史特論Ⅱ	増 渕	I 後	人間とそのアイコン(図像)の問題について、「ペルソナとトルツ」の視座から、美学的哲学的に考察する。 なお理解をふかめる一助として、スライド、OHP、ビデオを併用する。
芸術学特論	杉 野	I	表現の問題を現代のメディア・テクノロジーとの関連において検討する。
被服学輪講	松 川 中 島 小 川 駒 城	I・II	近着外国文献の輪読と討論。
被服学輪講	石 川 長谷部	I・II	各種外国文献の輪読と討論。

家庭経営学科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家政学原論Ⅰ	富 田	I 前	学問論、人間論、生活論の3部門について、それぞれ本質、由来、変異の3つの側面について論ずる。
家政学原論Ⅱ	小 倉	III・IV 前	ギリシア以来の西洋家政学史に即して家政学の基本概念を講義する。 教科書：小倉編「倫理学概論」(以文社) 「人間と家庭生活」(至文堂)
家庭生活論	小 倉	III・IV 後	家政学原論の基本概念を考慮しつつ西洋の文芸作品および代表的な思想家の家庭生活論を講述する。 教科書：小倉編「倫理学概論」(以文社) 「人間と家庭生活」(至文堂)。
家庭経済学概論	大 塚	I 前	家庭経済学に関する基礎的諸概念の理解を中心とする。
	安 井	I 後	マクロ経済学の基礎理論について、やさしく講義する。なお時間があればスタグフレーションなど現実の経済問題についても考察する。
家庭経済学Ⅰ	某	II	
家族関係学概論	湯 沢	II 前	家族の認識、機能の多様性、親子関係、兄弟関係、結婚、離婚の法則性、家族の変化と将来。
家族社会学Ⅰ	袖 井	I 後	家族社会学を学ぼうと必要とする社会的概念、研究方法および家族をとりまく現代社会の状況について講義する。 テキスト：社会学入門。有斐閣新書。
家族社会学Ⅱ	袖 井	II 後	現代における家族問題や婦人問題を社会的に解明する。 テキスト：テキストブック社会学(2)家族、有斐閣。



科 容 目	教 官	学 年	学 講 義 内 容
家庭法律学Ⅰ	湯 沢	Ⅲ 前	家族を律する民法第4・5編の成立、婚姻、離婚・親子・扶養の法的構成と裁判例の具体的説明。六法全書必要。
社会統計学Ⅰ	佐 藤	Ⅰ・Ⅱ 前	社会・経済現象をとらえる上で必要な統計学の基礎について、できるだけ実際例にしたがい学習する。 教科書：安川正彬著「統計学入門〔基礎編〕、〔応用編〕」（日経文庫 日本経済新聞社）
人 間 学	湯 沢 小 倉	Ⅰ・Ⅱ	講義の分担と内容は、初回に説明する。 カント以来の哲学的人間学の講義。
	原		異なる文化の中で「育つ」ということ、「育てる」ということは何か、「学ぶ」「教える」「教えられる」ということはどういうことなのかを考える。
	森 田		「制度と人間」というテーマについて、法哲学と比較文化論の視点からの検討を行う。（教材を使用するので掲示に注意すること）。
	大 塚		講義内容は追って掲示する。
家庭経営学演習Ⅰ	大 塚 湯 沢 小 倉	Ⅲ 後	「家庭生活」に関する事柄について、資料収集、分析、討論を通して理解し視野を広める。
家庭経営学演習Ⅱ	袖 井 富 田 某	Ⅳ 前	家庭経営に関する事柄について資料を収集し、分析、討論をおこなう。

科 容 目	教 官	学 年	学 講 義 内 容
家 政 学 史	竹 内	Ⅲ・Ⅳ 前	柳田国男を読む。衣食住をはじめとした眼前の移り行く事実のみで我々の現代と歴史とを共に探ろうとした「明治大正史」、日本人の家の「縦の団結」を訴え、死後の魂の行方を論じた「先祖の話」など。
家 政 思 想 史	松 田	Ⅲ・Ⅳ 前	近代では、レオン・パティスタ・アルベルティの『家族論』、現代では、ヤスパーズの『真理論』の中の「理性」と「愛」の項目を取り扱う。 参考書：小倉志祥編『近代人の原像』弘文堂 小倉・松田訳ヤスパーズ『真理論』(5)理想社
家庭管理学概論	某	Ⅱ・Ⅲ 後	
家政学原論演習	小 倉	Ⅳ	ヘーゲルの家族論を中心にして、それをめぐって現代の家政思想を講読する。 テキスト：Hegel, Grundlinien der Philosophie des Recht.
人 類 工 学	富 田	Ⅱ 後	「人とは何か」を追求する現代人類学の人間理解について講義する。 教科書：富田守論「人類学」垣内出版。
人類学実験実習	富 田	Ⅲ 後	人体の形態と機能の観察と測定、行動の観察と記録、およびデータの分析などの基礎的な技術を身につける。
人 間 工 学	堀 野	Ⅲ 前	作業の中から苦痛や不安全を排除く事が出発点。人間のミスと事故、使い易い道具、判り易い情報表示、疲労などを日常生活の場で捉えて論ずる。 教科書：F・ケラーマン他著小木沢「人間工学の指針」（日本出版サービス）
家庭経済学Ⅲ	某	Ⅲ 後	



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家庭経済学演習Ⅰ	某	Ⅳ	
家庭経済学演習Ⅱ	犬 塚	Ⅳ	卒論指導を中心とする。
家 計 簿 記	御 船	Ⅲ 前	最近の家計は、現金以外の収入や支出が多くなっている。財産管理も重要性を増している。家庭経済の実情を把握するために有効な家計簿記の理論と実習を行う。
消費者経済学	犬 塚	Ⅲ 前	都留重人訳「サムエルソン経済学」（岩波書店）国民生活研究所訳「消費者経済学」（至誠堂）、HEIB研究会編「HEIB—企業・行政・消費者の環—」（光生館）等を参考文献とする（貸与）。
消費者経済学実習	犬 塚	Ⅲ 後	前期「消費者経済学」における基礎的諸概念の理解および理論的基礎をふまえた上で、実証的に日本の現状を分析し、諸外国の資料との国際比較を行う予定。
経 済 史	斉 藤	Ⅱ 前	工業化の「歴史前提にかんして、西欧と日本の比較考察を行う。 教科書：斉藤修著『プロト工業化の時代』（日本評論社）
老 年 学	袖 井	Ⅲ 前	老年学の基礎概念、現論および現代における老人問題の諸相へ、家族、労働、年金、医療、生きがい等の面からアプローチする。
家 族 心 理 実 習	井 上	Ⅲ 後	家族関係の中でも、特に老人と家族の関わりに的をしぼって考察を進める予定。 教科書：井上・長嶋編「老年心理学」（朝倉書店）
家族関係学演習	湯 沢 袖 井	Ⅳ	家族と社会の関係についての、基礎概念の再検討、具体的問題の調べ方まとめ方、内外文献の講読と討論など。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
比 較 家 族 研 究	原	Ⅱ・Ⅲ 前	諸社会における家族のあり方について比較考察し、人間にとって家族とは何かを考える。
社 会 福 祉 学	中 田	Ⅱ・Ⅲ 後	社会福祉とは何かを理解するため、歴史・現状・用いられる方法などを概説する。高齢化社会へと急速にむかっているわが国の一人としての、これからの生き方の問題も共に考える。
家 庭 法 律 学 Ⅱ	湯 沢	Ⅲ 後	家庭法律学Ⅰに引き続いて、親権・後見・相続・家事裁判制度論を、実例を多用しながら法社会学的に考察する。演習形態をとる。
調 査 実 習 Ⅰ	湯 沢	Ⅲ (集中)	「生活調査法」の学習を基礎として、夏休みの始めの頃地方の一地域において、家庭生活の実態調査を行う。
調 査 実 習 Ⅱ	袖 井	Ⅲ (集中)	未定
応 用 統 計 学	横 山	Ⅲ 前	1元配置法、回帰分析、2元配置法、直交多項式などの応用統計学の基礎を、できるだけ家政学関係の例題で解説する。
応用統計学演習	横 山	Ⅲ 後	計量値でない様々なデータの解析法を商品テスト、官能検査などを通じて解説する。また簡単な直交表を使った実験計画についても学び、実際に応用する。
住宅設備及び環境	瀬 沼	Ⅱ・Ⅲ 後	住居における諸設備の目的、機構および設計の概要を述べると共に各種環境要素の評価、調整につき概説する。 教科書：瀬沼勲著「室内環境学」（三共出版）



大学院家庭経営学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家政学原論特論Ⅱ	小 倉	I・II	西洋現代の代表的な家政思想をテキストにして講読する。 F.OEter, Familie und Gesellschaft, usw.
家庭経済学特論	某	I・II 後	
経営経済学特論	犬 塚	I	未定。
消費者行動論	原 田	I・II 後	わが国の実証的生活研究における先人の諸業績の再検討を通して、今日的生活研究の課題を考察する。 参考書：生活研究同人会編『近代日本の生活研究』（光生館、1982年）
家族関係学特論	岩 井	I・II 後	個人の精神病理を、家族を中心として、社会・文化などと、いかなる関わりのもとに形成されていくのか、根源に在るものを探究する。教科書：岩井寛編・『神経症』『うつ病』（日本文化科学社）
家庭法律学特論	湯 沢	I・II 前	諸外国の離婚法と離婚給付、とくに養育費の問題について比較・検討する。
比較家族研究特論	袖 井	I 前	共働き家族に関する内外の文献講読。
比較家族研究特論	目 黒	I・II 後	第二次大戦後の日米両社会における家族を比較検討することによって、現代社会の家族を考察する。 テキスト：Andrew J. Cherlin, Marriage, Divorce, Remarriage Harvard Univ. Press. 1981
家庭管理学特論Ⅰ	富 田	I・II 後	家庭の生活行動について、基礎的な文献の講読。
家庭経営学特別講義	原	I・II	諸社会における家族と当該社会との関係を考察する。

科 容 目	教 育 学 年	卒 業 講 義 内 容
家庭科教育特論 Ⅰ	牧 野 I・II 前	I. 女子教育の歴史と家庭科、家庭科の内容とその変遷、諸外国における家庭生活教育の動向等を概観し、II. 教科としての家庭科の存立意義 III. 教育内容のあり方を家族や婦人問題との関連で考察する。
後援構成実習	林 昌樹 (後援)	食物の性質並びに食に関する基礎的事項及びその衛生的意義の解説。 教科書：現代女子読本「健康構成実習」(成美堂出版)
後援構成実習	古 松 寛 (後援)	衣服構成に関する基礎的事項並びに服装の役割の解説。 教科書：現代女子読本「健康構成実習」(成美堂出版)



家政学部共通科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家 政 学 原 論	富 田	I 前	家政学の根本原理を学問論、人間論、生活論の3つの柱の観点から講義する。
児 童 学 概 論	全教官	I 前	児童における人間の探究。 全教官が担当し、児童学全般を展望し、各領域に関する紹介と導入を行う。
食 物 学 概 論	荒 川 島 田 本 間 久保田	I 後	栄養学、食品学、調理学、貯蔵学の四本の柱の関連において概説する。
被 服 学 概 論	全教官	I 前	被服材料学、染色・整理学、被服構成学、服飾美学などの概要を述べ、被服学を展望する。
住 居 学 概 論	小 川	I～IV 前	住生活の基本条件をふまえて生活の拠点である住居について、生活機能・空間機能・構成機能の諸側面から論じる。 教科書：武内満子「住居学」(理工学社) 参考書：小川信子他「社会福祉と住居」(一粒社)

家庭科教職共通科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家 庭 看 護 学	山 口	集中	家庭看護学の基礎を救急法等の実技をまじえて講義する。プリント使用。
家 庭 機 械 及 び 家 庭 電 気	石 田	II 以上	中・高等学校の家庭科担当者として必要な機械と電気の実際的な知識・技能を教授する。 参考書：森 晶幹・設楽 実共著「新・家庭機械および電気」(森北出版)
調 理 実 習	浜 島	II (児童)	手法別、食品別系統による基本調理及び調理実験。
調 理 実 習	浜 島	II 前 (被服)	手法別、食品別系統による基本調理及び調理実験。
調 理 実 習	浜 島	II (家経)	手法別、食品別系統による基本調理及び調理実験。
被・服 構 成 実 習	岡 田	II (児童)	被服構成に関する基礎的事項並びに基礎的技術の実習。 教科書：柳沢澄子編著「被服構成学実験」(産業図書)
被 服 構 成 実 習	林	II 前 (食物)	(食物)被服構成に関する基礎的事項並びに基礎的技術の実習。 教科書：柳沢澄子編著「被服構成学実験」(産業図書)
被 服 構 成 実 習	古 松	II (家経)	被服構成に関する基礎的事項並びに基礎的技術の実習。 教科書：柳沢澄子編著「被服構成学実験」(産業図書)



目録表

科 目	年 次	目 次
第1章 社会生活と社会生活の発展	第1年	第1章 社会生活と社会生活の発展
第2章 社会生活と社会生活の発展	第2年	第2章 社会生活と社会生活の発展
第3章 社会生活と社会生活の発展	第3年	第3章 社会生活と社会生活の発展
第4章 社会生活と社会生活の発展	第4年	第4章 社会生活と社会生活の発展
第5章 社会生活と社会生活の発展	第5年	第5章 社会生活と社会生活の発展
第6章 社会生活と社会生活の発展	第6年	第6章 社会生活と社会生活の発展
第7章 社会生活と社会生活の発展	第7年	第7章 社会生活と社会生活の発展
第8章 社会生活と社会生活の発展	第8年	第8章 社会生活と社会生活の発展
第9章 社会生活と社会生活の発展	第9年	第9章 社会生活と社会生活の発展
第10章 社会生活と社会生活の発展	第10年	第10章 社会生活と社会生活の発展

教職専門科目



教 職 専 門 科 目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教 育 心 理	本 儀	文教育 I～IV 前	子どもの教育と発達に関わる心理学的諸 問題の概説。
教 育 心 理	勝 浦	理・家 政 I～IV 前	発達と学習を中心に、教育心理学の諸分 野を概観し、問題点について考察する。 特に諸現場への適応可能性という観点か ら教育心理学の知見及び手法を吟味す る。
青 年 心 理	春 日	文教育 I～IV 後	発達と青年期をめぐる諸理論について学 び、適応の問題を考える。
青 年 心 理	大日向	理家政 I～IV 後	青年期の発達の意義を明らかにし、今日 における青年期の諸問題について考え る。
初 等 教 育 原 理	松 平	II・III 前	初等教育の実際場面（主として小学校） で行われている授業を素材にしながら教 材、子ども、教師などについて考える。
教 育 原 理 I	小 川	文教育 II・III 前	人間の能力・発達・学習を軸に、今日の 教育を形づくっている問題をみてゆく。 受講者の主体的な参加を求める。
教 育 原 理 II	河 野	文教育 II・III 後	前期の講義を受けて、生徒指導の問題を 中心に考える。
教 育 原 理 I	宮 原	理・家 政 II・III 前	学校教育の成立の功罪を目的・内容・方 法などにわたって論ずる。映画もみる。



科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教 育 原 理 II	平 田	理・家 政 II・III	個をとりまく日常性を大切にしつつ教育のありようを考える。生徒指導といわれる機能であるが、学校教育に限定せず考えたい。後半では、登校拒否・非行傾向、障害児などの問題について考える。
道 徳 教 育 の 研 究	尾 田	I～IV 文教育 (前) 理・家 政 (後)	道徳教育の意義と方法について。教科書『道徳教育の実践』(学陽書房)
教 育 哲 学	上 野	I～IV 後	教育を科学的にとらえることと哲学的にとらえることとの関係について。
教 育 史	渡 部	I 前	近代日本における子ども文化(学校の内外)と教育をテーマに講義する。地域社会における子ども文化の衰退と大量消費型子ども文化の蔓延と評される今日、そのあり方を歴史的視野で考えてみたい。
教 育 社 会 学	河 野	II・III 前	人間発達の社会学、現代社会と教育、学校の社会学が主な内容になる。
教 育 行 政 学	高 倉	I～IV 後	教育行政の基本原則および教育行政の組織と運営について、教育法規を主たる手がかりとしながら概説する。 参考書「必修学校小六法昭和61年度版」(協同出版)。
社 会 教 育	笹 川	II～IV 前	現代における人格危機の端的なあらわれである。自殺・犯罪・非行とその原因を考えたい。危機克服のための、地域における教育・文化活動の組織化とその公的保障を、成人の発達を軸に考える。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教 育 実 習		IV	高校・中学校教員のための実習(2単位) 小学校・幼稚園教員のための実習(4単位)
(小学校教材研究)		I～IV	小学校教員希望者に隔年で4教科ずつ開講する。
国 語 科 教 材 研 究	前 野	I～IV 後	小学校学習指導要領に基づき、児童の言語能力の伸長のために必要な、発達段階に応じた教材の選択や扱い方、および理解・表現・言語事項等の国語学習全般にわたる指導方法を解説する。
算 数 科 教 材 研 究	本 田	I～IV 前	小学校学習指導要領に基づき、教材の数学的な背景をとらえさせると同時に、児童の心理的な発達段階を考えさせ、その調和がはかれるよう、指導内容、指導法も具体的に指導する。
社 会 科 教 材 研 究	黒 部	I～IV 前	小学校学習指導要領に基づき、児童の社会認識の発達をふまえた指導のありかたを、指導内容および指導方法の両面から、具体的に指導する。
理 科 教 材 研 究	宮 崎	I～IV 後	小学校学習指導要領に準じて指導する。 ○児童の発達段階をふまえた学習指導法。 ○問題解決学習の手だて・整理・発展。 ○教材の開発と創造。 ○体験を通じた児童と自然とのかかわり方。
(保育内容の研究)		I～IV	幼稚園教員希望者は、下記科目及び別に定める科目から単位を修得する。
保育内容の研究 I	高 橋	I～VI 前	言語とは何か。動物の言語と人間の言語との比較。子どもの言語獲得の過程。幼稚園での言語を媒介にした諸活動について学ぶ。



科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
保育内容の研究 II	高 橋	I～IV 後	人間のコミュニケーション活動について。母と子のコミュニケーション。幼稚園での子ども同志の、子どもと保育者のコミュニケーション活動について学ぶ。
保育内容の研究 III	村 田	I～IV 前	幼児の教育・幼稚園教育の概略、幼稚園の保育内容「自然」を中心とし、他の内容にも関連をもたせた具体的な話をする。教科書…幼稚園教育要領、領域「自然」の指導書。
(教科教育法)		III	高・中教員希望者は第3年次において各教科毎に履修しなければならない。
社会科教育法	酒 井 高 橋	III 前	学習指導要領に準拠し、社会科教育の目標・内容・方法などについて中学校・高等学校に分けて概説する。 使用テキスト：社会認識教育学会編「中等社会科教育学」(第一学習社)
国語科教育法	花 田 早 崎	III 前	国語科教育の目標・内容・方法等について、中学校・高等学校に分けて、概説する。 使用テキスト：「新版国語教育学研究」(学芸図書)
中国語科教育法	佐 藤	III 後	日本における中国語教育の歴史をふりかえりつつ、中国語教育の実際を語法論・修辞論を中心に学習する。 参考書：『近代日本の中国語教育』(六角恒広・不二出版)。
英語科教育法	園城寺 宮 川	III 前	英語教育の現状、英語教育思潮の変遷、目的論、教材論、方法論、学習指導案などについて「現代の英語科教育法」(南雲堂)を参考にして講義する。 夏期休暇中に Jespersen, <u>Essentials of English Grammar</u> を読まて、前期末に試験を行なう。

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
仏語科教育法	中 村	III 後	開講時に指示する。
保健体育科教育法	梅 本	III 後	保健体育科の学習指導の理論と授業に関する諸問題の研究。 テキスト：「中学校指導書保健体育編」(東山書房)
音楽科教育法	久 保	III	日・欧米諸国の音楽教育の思潮・変遷から音楽教育の在り方を採り、中・高校の音楽科教育の目標、内容、指導方法、評価などについての研究を行う。
数学科教育法	橋 本	III 前	中・高校の数学のカリキュラム・指導法・目標・評価などについて、演習を通して研究をすすめる。 参考書：中学校指導書数学編(文部省)
理科教育法	石 川	III 後	映像教材および各種教育機器の応用を中心に、最近の科学技術の進歩に対応する理科教育のあり方をさぐる。 参考書：東京天文台編「理科年表」(丸善)
家庭科教育法	小 竹	III 前	中・高校の家庭科教育の目標、内容、特質、授業計画、評価などについて概説する。 テキスト：「新版家庭科教育法」・学文社刊



教職共通科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
書 道	本 郷	I～IV 前	<ul style="list-style-type: none"> <li>毛筆（小筆）使用。ひらがな変体がないを主とする。</li> <li>手本：あきつ仮名帖</li> <li>ペン（ペン先は開講時に指示）使用。漢字を主とし、実用を目的とする。</li> <li>手本：仲田式のペン習字（日本習字普及協会）</li> </ul>
幼小体育実技	片 岡	I～IV 前	幼児・小学生を対象とした基本の運動及び表現法について学ぶ。
幼小体育実技	長 澤	I～IV 後	なわ、ボールなどの手具や器械器具を使って基本的な運動の実技を行う。また、運動の観察法や系統性などについても概説する。
ピ ア ノ	橋	I～IV	幼稚園・小学校の教員として必要な程度のピアノ演奏法。初心者教材は、「ピアノの本」橋編。4名1クラス。隔週通年授業。
声 楽 V	橋	I～IV	幼稚園・小学校の教員として必要な程度の歌唱研究及び伴奏の研究。4名1クラス。隔週通年授業。
合 唱 V 指 揮 法 II	橋	I～IV	幼稚園・小学校の教材程度の合唱曲の研究と指揮実習。

専任教官名簿



専任教官名簿

学 長 藤 卷 正 生

文教育学部

学部長(併)教授 森 隆 夫

哲 学 科

教 授 尾 田 幸 雄

“ 坂 本 満 男

“ 熊 谷 直 男

“ 宮 島 喬 二

助 教 授 土 屋 賢 二

“ 高 島 元 洋

講 師 江 原 由 美 子

“ 羽 入 佐 和 子

助 手 高 野 禎 子

史 学 科

教 授 青 木 和 夫

“ 大 口 勇 次 郎

“ 平 野 孝 一

“ 佐 伯 有 秀 一

助 教 授 山 本 秀 行

講 師 岸 本 美 緒

“ 小 風 秀 雅

助 手 吉 田 美 枝 子

地 理 学 科

教 授 浅 海 重 夫

“ 式 正 英

“ 井 内 昇 夫

助 教 授 内 藤 博 夫

“ 三 上 岳 彦

講 師 栗 原 尚 子

助 手 渡 辺 真 紀 子

国 文 学 科

教 授 堤 精 二

“ 市 川 孝 廉

“ 犬 養 清 人

“ 浅 井 紀 幸

助 教 授 三 木 藤 禮 子

“ 白 平 野 由 紀 子

助 手 近 衛 典 子

外 国 文 学 科

中国文学・中国語学

教 授 頼 惟 勤

“ 近 藤 光 男

“ 中 山 時 子

“ 佐 藤 保 敬

外国人教師 李 玉

英 文 学 ・ 英 語 学

教 授 外 山 滋 比 古

“ 野 島 秀 勝

“ 酒 本 雅 之

“ 池 田 摩 耶 子

“ 宮 川 幸 久

助 教 授 海 老 根 静 江

“ 富 山 太 佳 夫

講 師 西 尾 道 子



講 師	今 西 典 子
外国人教師	J. C. ルイス
助 手	田 辺 雅 子
独文学・独語学	杉 本 正 哉
教 授	石 丸 昭 二
助 教 授	中 川 信
仏文学・仏語学	大 石 川 宏
教 授	中 村 弓 子
助 教 授	シヤンタル 滝野
外国人教師	
教育学科	
教 育 学	
教 授	河 野 重 男
助 教 授	森 小 川 剛
助 教 授	上 野 浩 道
助 教 授	宮 原 光 行
助 教 授	鷹 田 中 真 砂 子
助 手	熊 谷 真 弓
心 理 学	
教 授	藤 永 日 保
助 教 授	春 須 賀 哲 夫
助 教 授	内 田 伸 子
講 師	内 藤 俊 史
舞踊教育学科	
舞踊教育学	
教 授	森 下 はるみ

教 授	加 賀 秀 夫
助 教 授	興 水 はる海
助 教 授	片 岡 康 子
助 手	石 黒 節 子
音楽教育学	三 原 みどり
教 授	大 宮 誠
助 教 授	徳 丸 吉 彦
助 教 授	遠 藤 秀 一郎
助 講 師	林 廣 子
理 学 部	
学部長(併)教授	中 西 正 城
数 学 科	
教 授	伊 関 兼 四 郎
助 教 授	立 花 俊 一 侃
助 教 授	林 田 千 鶴 子
助 教 授	松 島 侑 子
助 教 授	沢 村 幸 男
助 教 授	高 竹 内 川 順 治
助 教 授	小 藤 原 正 彦
助 教 授	渡 辺 ヒサ子
助 手	小 前 田 ミチ子
助 手	竹 尾 富 貴 子
助 手	榎 本 陽 子
物 理 学 科	
教 授	石 黒 英 一

教 授	橋 爪 夏 樹
助 教 授	田 中 厚 子
助 教 授	伊 藤 敬 博
助 教 授	伊 藤 博 明
助 教 授	柴 田 文 宏
助 教 授	池 田 永 靖
助 教 授	富 井 裕 子
講 師	亀 大 島 裕 子
助 手	森 佐 藤 浩 史
助 手	鈴 木 正 健 二
助 手	窪 田 健 二
化 学 科	
教 授	中 西 正 城
助 教 授	塩 田 三 千 夫
助 教 授	曾 根 興 三 子
助 教 授	瀬 野 矢 治 夫
助 教 授	細 田 侯 武
助 教 授	前 松 本 野 肇
助 教 授	永 福 田 豊
助 教 授	大 藤 枝 裕 二
助 教 授	石 堀 毛 正 義
助 教 授	堀 北 垣 佳 也 子
助 教 授	鷹 野 景 子

生物学科	
教 授	太 田 次 郎
助 教 授	塚 本 滋 也
助 教 授	新 関 村 堆 子
助 教 授	能 清 水 碩 益
助 教 授	清 遠 山 和 貞 男
助 教 授	石 山 下 貴 司
助 教 授	馬 場 昭 次 子
助 教 授	渡 辺 原 坦 子
助 教 授	西 川 惠 子
助 教 授	松 浦 悦 子
助 教 授	豊 島 上 義 子
助 教 授	最 室 伏 義 子
助 教 授	能 村 堆 子
助 教 授	根 本 心 一
附 属 臨 海 実 験 所	
所 長 (併) 教 授	荒 川 信 彦
家 政 学 部	
学 部 長 (併) 教 授	田 口 恒 夫
児 童 学 科	
教 授	大 塚 雅 彦
助 教 授	本 田 和 子
助 教 授	水 野 悌 一 子
助 教 授	黒 田 淑 子
助 教 授	森 田 明



助 教 授	飯 長 喜一郎
助 手	田 中 佑 子
食物学科	
教 授	荒 川 信 彦
〃	小 林 彰 夫
〃	相 田 浩 子
助 教 授	島 田 淳 子
〃	倉 田 忠 男
〃	本 間 清 一
講 師	畑 江 敬 子
〃	久保田 紀久枝
助 手	高 崎 禎 子
被服学科	
教 授	松 川 哲 哉
〃	中 島 利 誠
〃	石 川 欣 造
〃	板 倉 寿 郎
助 教 授	長谷部 ヤヱ
〃	小 池 三 枝
〃	小 川 昭二郎
講 師	駒 城 素 子
助 手	小笠原 史 子
〃	平 井 良 行
家庭経営学科	
教 授	湯 沢 雅 彦
〃	小 倉 志 祥
助 教 授	富 田 守 子
〃	袖 井 孝 子
講 師	犬 塚 伝 也
婦人問題(総合コース)	

教 授	原 ひろ子
大学院人間文化研究科	
(博士課程)	
研究科長(併)教授	太 田 次 郎
助 手	西 澤 奈津子
〃	浅 倉 有 子
〃	横 田 みどり
〃	仲 真紀子
〃	大 塚 恵
〃	岩 崎 千 鶴
〃	皆 川 美恵子
〃	伊 藤 ユ キ
生活環境研究センター	
センター長教授	福 場 博 保
教 授	五十嵐 脩
助 教 授	大 橋 昌 子
〃	富 永 典 子
学 生 部	
部長(併)教授	中 島 利 誠
保健管理センター	
所長(併)教授	奥 野 剛
附属図書館	
館長(併)教授	堤 精 二
女性文化資料館	
館長(併)教授	堤 精 二
助 手	館 かおる



